

ポップカルチャー	備考		
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授	藤本 由香里	

授業の概要・到達目標

指導教員の研究課題は、特に少女マンガにおける漫画表現の特性・歴史的展開、マンガの国際比較等であるが、マンガ表現に限らず、アニメやゲーム、舞台表現等の女性向けポップカルチャー領域の特性分析など、履修者の研究テーマに応じて、適切なテキストや講義内容を選択していく。

ポップカルチャーは新しい学問領域で、まだ誰も手をつけていない研究課題がたくさんある。けれど一方で、すぐれた先行研究も着々と増えてきている。それらの先行研究をきちんと踏まえつつ、まだないところに問いを立て、次の学問展開の基礎となるような論文を書いていくことを目指す。とくにこの学期では、先行研究の収集を行いつつ、計画している研究課題の設定が本当に妥当なものであるかの検討を集中的に行う。

授業内容

- 第1回：研究課題と計画の発表/研究方法の検討
- 第2回：先行研究（文献）の収集結果と解説（1）
- 第3回：先行研究（文献）の収集結果と解説（2）
- 第4回：先行研究（学術論文）の収集結果と解説（1）
- 第5回：先行研究（学術論文）の収集結果と解説（2）
- 第6回：先行研究の報告（1）
- 第7回：先行研究の報告（2）
- 第8回：先行研究の報告（3）
- 第9回：先行研究の整理と課題の検討
- 第10回：サンプル調査の方法の検討
- 第11回：サンプル調査の報告（1）
- 第12回：サンプル調査の報告（2）
- 第13回：サンプル調査の報告（3）
- 第14回：これまでの総括と方針の再検討

履修上の注意

先行研究を検討するに際して、それが自分の問題意識とクロスするポイントはなにか、常に自分の研究課題にフィードバックさせる読みをこころがけ、焦点がより絞られていくような方向で読み込んでいくこと。狭い範囲の先行研究でなく、広い目配りと、細心の注意をもって先行研究の収集・理解につとめること。

準備学習（予習・復習等）の内容

繰り返しになるが、先行研究を検討するに際して、それが自分の問題意識とクロスするポイントはなにか、常に自分の研究課題にフィードバックさせる読みをこころがけ、焦点がより絞られていくような方向で読み込んでいくこと。狭い範囲の先行研究でなく、広い目配りと、細心の注意をもって先行研究の収集・理解につとめること。

教科書

必要に応じて適宜指定する。

参考書

必要に応じて適宜指定する。

成績評価の方法

優れた論文を書くために必要なのは、1. 課題設定の妥当性、2. 先行研究の正確な理解、3. その上でオリジナリティのある研究の方向を定めること、4. 新しいデータの収集・分析の方法の妥当性と積極性、5. それらすべてを緊密に結びつける論理性。これらを意識した報告と発表ができていくかを判断し、評価を行う。

その他

特になし。

ポップカルチャー	備考		
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授	藤本 由香里	

授業の概要・到達目標

ポップカルチャー研究でも先行研究は数多くあるが、それらの相互の関係や論点の整備はまだ十分とはいえない。研究を進めていく際には、隣接の領域での研究結果や、当該ジャンルの歴史的成立の経緯、諸外国ではどうなっているのか、などにも目配りが必要とされる。この学期では具体的な研究結果を積み重ねつつ、立体的な問題構成を意識した指導を行う。

授業内容

- 第1回：これまでの研究成果の報告と問題点の検討
- 第2回：実際のデータやインタビュー等資料の再検討
- 第3回：外国語の既存研究の収集と解説
- 第4回：外国語の既存研究の収集結果と解説
- 第5回：外国語の既存研究の報告（1）
- 第6回：外国語の既存研究の報告（2）
- 第7回：外国語の既存研究の報告（3）
- 第8回：新たに浮上してきた視点の整理
- 第9回：隣接領域の既存研究の収集と解説
- 第10回：隣接領域の既存研究の収集結果と解説
- 第11回：隣接領域の既存研究の報告（1）
- 第12回：隣接領域の既存研究の報告（2）
- 第13回：隣接領域の既存研究の報告（3）
- 第14回：新たに浮上した視点の整理と研究の再検討

履修上の注意

海外文献の読み込みには十分時間を取り、準備して授業に臨むこと。また、隣接領域の文献を読む際には、常に自分の研究への応用可能性を意識して読むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

繰り返しになるが、海外文献の読み込みには十分時間を取り、準備して授業に臨むこと。また、隣接領域の文献を読む際には、常に自分の研究への応用可能性を意識して読むこと。

教科書

必要に応じて適宜指定する。

参考書

必要に応じて適宜指定する。

成績評価の方法

優れた論文を書くために必要なのは、1. 課題設定の妥当性、2. 先行研究の正確な理解、3. その上でオリジナリティのある研究の方向を定めること、4. 新しいデータの収集・分析の方法の妥当性と積極性、5. それらすべてを緊密に結びつける論理性。これらを意識した報告と発表ができていくかを判断し、評価を行う。

その他

特になし。

必修科目

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤本 由香里		

授業の概要・到達目標

1年たったこの段階では、先行研究をきちんと踏まえた上で、自分なりのオリジナルな研究視点を打ちだし、それを積極的に外部に問うていくことができる実力と実績を養う。比較的まとまってきた論考から、短くても完成した論文を創り上げ、外部の査読に耐える論文を作成することを達成目標とする。

授業内容

- 第1回：現時点での研究発表・研究の概要
- 第2回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（1）
- 第3回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（2）
- 第4回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（3）
- 第5回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（4）
- 第6回：問題点の整理
- 第7回：学会投稿論文のテーマ設定
- 第8回：学会投稿論文の構成の検討
- 第9回：学会投稿論文を完成させる上での問題点の検討
- 第10回：問題点を補うべき資料収集方針の検討
- 第11回：学会投稿論文の要旨発表
- 第12回：学会投稿論文の提出
- 第13回：問題点の指摘と検討
- 第14回：改善した論文の提出

履修上の注意

最終的な論文としての完成を目指して形を整えていくにあたって、比較的まとまってきた論考から、短くても完成した論文を創り上げ、外部の査読に耐える論文を作成するため、アウトプットのしかたを意識するように心がける。

準備学習（予習・復習等）の内容

提出の前に、きちんと伝わる論文になっているかどうか読み返し、とくに留学生は日本語をチェックしてもらって訂正してから提出するという手順を守ること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

成績評価の方法

優れた論文を書くために必要なのは、1. 課題設定の妥当性、2. 先行研究の正確な理解、3. その上でオリジナリティのある研究の方向を定めること、4. 新しいデータの収集・分析の方法の妥当性と積極性、5. それらすべてを緊密に結びつける論理性である。今学期はとくに、短くても、具体的な論文においてそれが実現できているかを判断し、評価を行う。

その他

特になし。

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 藤本 由香里		

授業の概要・到達目標

研究を積み重ねて来る中で、どうしても、もっと広く視点をとって、自分がやっている研究の歴史的・社会的背景や文脈を押さえる必要が出てくる。1年半の積み重ねの中で見えてきた社会的文脈を押さえるための先行研究を検討する。同時に、積み重ねてきた研究結果の具体的な報告を随時検討していく。研究発表とそれに伴う新しい課題の検討、そこから必要になってくる歴史的・社会的側面の裏付けとなる既存研究の探索と報告は、実際には交互に行われることになることが予想される。

授業内容

- 第1回：これまでの研究成果の報告と問題点の検討
- 第2回：歴史的・社会的側面の裏付けとなる既存研究の収集と解説
- 第3回：歴史的・社会的側面の裏付けとなる既存研究の収集結果と解説
- 第4回：歴史的・社会的側面の裏付けとなる既存研究の報告（1）
- 第5回：歴史的・社会的側面の裏付けとなる既存研究の報告（2）
- 第6回：歴史的・社会的側面の裏付けとなる既存研究の報告（3）
- 第7回：論点の整理と方法の検討
- 第8回：現時点での研究発表・研究の概要
- 第9回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（1）
- 第10回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（2）
- 第11回：現時点での研究発表・部分ごとの詳細検討（3）
- 第12回：問題点の整理
- 第13回：さらに参考となるとと思われる文献の探索
- 第14回：総括

履修上の注意

自分の研究が、社会全体の中ではどういう意味を持ち、どういう位置づけとすることができるのかを意識すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された論文や文献だけでなく、日ごろから基礎文献や、分野は違っても優れた論文に目を通すように心がけること。

教科書

必要に応じて指定する。

参考書

必要に応じて指定する。

成績評価の方法

優れた論文を書くために必要なのは、1. 課題設定の妥当性、2. 先行研究の正確な理解、3. その上でオリジナリティのある研究の方向を定めること、4. 新しいデータの収集・分析の方法の妥当性と積極性、5. それらすべてを緊密に結びつける論理性。これらを意識した報告と発表ができているかを判断し、評価を行う。

その他

特になし。

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 藤本 由香里		

授業の概要・到達目標

博士課程最終年度前期では、博士論文の完成に向けて、テーマおよび方法の最終的な再検討と、構成・論理の見直しを行いつつ、ブラッシュアップをはかっていく。

授業内容

- 第1回：これまでの研究成果の報告と再検討
- 第2回：研究テーマ・個々の課題・構成の再検討
- 第3回：最新の先行研究の調査と報告（1）
- 第4回：最新の先行研究の調査と報告（2）
- 第5回：訂正点・改善点の確認
- 第6回：見直し後の研究全体の構成の報告と討論
- 第7回：個別の途中経過の報告と討論（1）
- 第8回：個別の途中経過の報告と討論（2）
- 第9回：個別の途中経過の報告と討論（3）
- 第10回：全体の論旨の中間発表とアドバイス
- 第11回：個別の途中経過の報告と討論（4）
- 第12回：個別の途中経過の報告と討論（5）
- 第13回：個別の途中経過の報告と討論（6）
- 第14回：総括と今後の課題の確認

履修上の注意

最終的な学位請求論文の完成に向けて、論文そのものをブラッシュアップしていくとともに、論文に取り入れることができる新しい研究成果が出ていないかどうか常に意識しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

ここまできて、何か具体的に課題を与えられなくては何か出来ないようでは、そもそも研究に向かないでしょう。指導がいらなくらいの研究、「これでどうだ!」という研究を期待します。

教科書

とくに指定しない。

参考書

必要に応じて指定する。

成績評価の方法

優れた論文を書くために必要なのは、1. 課題設定の妥当性、2. 先行研究の正確な理解、3. その上でオリジナリティのある研究の方向を定めること、4. 新しいデータの収集・分析の方法の妥当性と積極性、5. それらすべてを緊密に結びつける論理性。これらを意識した報告と発表ができていくかを判断し、評価を行う。

その他

特になし。

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 藤本 由香里		

授業の概要・到達目標

博士論文の最終的な完成に向けて、論理の展開、発表のしかた、わかりやすさなど、討議を重ねてさらにブラッシュアップしていきます。

授業内容

- 第1回：これまでの研究成果全体の報告と確認
- 第2回：研究課題と構成の最終検討
- 第3回：博論完成までのスケジュールの最終検討
- 第4回：研究成果全体の発表と討議
- 第5回：個別の研究成果と発表構成の詳細な検討（1）
- 第6回：個別の研究成果と発表構成の詳細な検討（2）
- 第7回：個別の研究成果と発表構成の詳細な検討（3）
- 第8回：見えてきた課題の整理
- 第9回：再構成した研究成果と構成の詳細な検討（1）
- 第10回：再構成した研究成果と構成の詳細な検討（2）
- 第11回：再構成した研究成果と構成の詳細な検討（3）
- 第12回：最終発表のための課題の整理
- 第13回：最終発表
- 第14回：最終的なブラッシュアップのための課題確認

履修上の注意

最終的なブラッシュアップに向けて、最終段階の細かい検討に入っていきます。この段階では、研究はすでにかなり固まっているはずですが、取り入れるべき新しい研究成果には常に注意を払い、変更が必要と判断されたら、素早く対応してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の能力の限界まで出し切った、最高の博士論文に仕上げること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

必要に応じて指定する。

成績評価の方法

優れた論文を書くために必要なのは、1. 課題設定の妥当性、2. 先行研究の正確な理解、3. その上でオリジナリティのある研究の方向を定めること、4. 新しいデータの収集・分析の方法の妥当性と積極性、5. それらすべてを緊密に結びつける論理性。これらを総合した上で実際の論文の評価を行う。

その他

特になし。

博士後期課程

必修科目

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎		

授業の概要・到達目標

研究課題はマンガ、アニメ、ゲームなどにより構成されるおたく文化の研究、およびこの文化領域のアーカイブ構築である。博士後期課程初年次の前半の指導にあたり、研究テーマの企画立案と調査法の検討に重心を置き、予備調査を通してその実施可能性が十分に確認されることを目標とする。

授業内容

- 第1回：研究テーマの企画立案：既存研究の報告 (1)
- 第2回：研究テーマの企画立案：既存研究の報告 (2)
- 第3回：研究テーマの企画立案：既存研究の報告 (3)
- 第4回：研究テーマの企画立案：調査法の検討 (1)
- 第5回：研究テーマの企画立案：調査法の検討 (2)
- 第6回：研究テーマの企画立案：調査法の検討 (3)
- 第7回：予備調査の経過報告と討論 (1)
- 第8回：予備調査の経過報告と討論 (2)
- 第9回：予備調査の経過報告と討論 (3)
- 第10回：中間発表と討論
- 第11回：予備調査の経過報告と討論 (4)
- 第12回：予備調査の経過報告と討論 (5)
- 第13回：予備調査の経過報告と討論 (6)
- 第14回：期末発表と討論

履修上の注意

既存の関連研究を収集するなど、自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回各々の研究の進捗について、発表を準備すること。研究のテーマや方法が定まるまでは、複数のテーマを併行して進める。

教科書

使用しない。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

討論と発表を含む実習過程と、成果物の双方により総合的に評価を行う。研究の内容はもとより、その意義や成果を伝えるための工夫も重視する。

その他

特になし。

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎		

授業の概要・到達目標

研究課題はマンガ、アニメ、ゲームなどにより構成されるおたく文化の研究、およびこの文化領域のアーカイブ構築である。博士後期課程初年次の後半の指導にあたり、予備調査で用いられた調査法の、さらなる運用に重心を置き、その洗練を目標とする。

授業内容

- 第1回：研究テーマの再検討：これまでの成果の発表と討論
- 第2回：研究テーマの再検討：最新の既存研究の報告
- 第3回：研究テーマの再検討：調査法の再検討
- 第4回：調査の経過報告と討論 (1)
- 第5回：調査の経過報告と討論 (2)
- 第6回：調査の経過報告と討論 (3)
- 第7回：調査の経過報告と討論 (4)
- 第8回：調査の経過報告と討論 (5)
- 第9回：中間発表と討論
- 第10回：調査の経過報告と討論 (6)
- 第11回：調査の経過報告と討論 (7)
- 第12回：調査の経過報告と討論 (8)
- 第13回：調査の経過報告と討論 (9)
- 第14回：年度末発表と討論

履修上の注意

最新の既存の関連研究を収集するなど、自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回各々の研究の進捗について、発表を準備すること。

教科書

使用しない。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

討論と発表を含む実習過程と、成果物の双方により総合的に評価を行う。研究の内容はもとより、その意義や成果を伝えるための工夫も重視する。

その他

特になし。

ポップカルチャー	備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ	
開講期	春学期	単位 演2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎	

授業の概要・到達目標

研究課題はマンガ、アニメ、ゲームなどにより構成されるおたく文化の研究、およびこの文化領域のアーカイブ構築である。博士後期課程二年次においては、研究成果を学外に広く公表していくことを目標とし、前半の指導においては、そのための準備に重心を置く。

授業内容

- 第1回：研究テーマの再検討：これまでの成果の発表と討論
 第2回：研究テーマの再検討：最新の既存研究の報告
 第3回：研究成果の学外発表の検討：発表の場の検討
 第4回：研究成果の学外発表の検討：発表に向けた準備の検討
 第5回：調査の経過報告と討論 (1)
 第6回：調査の経過報告と討論 (2)
 第7回：調査の経過報告と討論 (3)
 第8回：調査の経過報告と討論 (4)
 第9回：中間発表と討論
 第10回：調査の経過報告と討論 (5)
 第11回：調査の経過報告と討論 (6)
 第12回：調査の経過報告と討論 (7)
 第13回：調査の経過報告と討論 (8)
 第14回：期末発表と討論

履修上の注意

最新の既存の関連研究を収集するなど、自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回各々の研究の進捗について、発表を準備すること。

教科書

使用しない。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

討論と発表を含む実習過程と、成果物の双方により総合的に評価を行う。研究の内容はもとより、その意義や成果を伝えるための工夫も重視する。

その他

特になし。

ポップカルチャー	備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ	
開講期	秋学期	単位 演2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎	

授業の概要・到達目標

研究課題はマンガ、アニメ、ゲームなどにより構成されるおたく文化の研究、およびこの文化領域のアーカイブ構築である。博士後期課程二年次においては、研究成果を学外に広く公表していくことを目標とし、後半の指導においては、発表内容の洗練に重心を置く。

授業内容

- 第1回：研究テーマの再検討：これまでの成果の発表と討論
 第2回：研究テーマの再検討：最新の既存研究の報告
 第3回：研究成果の学外発表の検討：発表内容の検討
 第4回：研究成果の学外発表の検討：プレゼンテーションの検討
 第5回：調査の経過報告と討論 (1)
 第6回：調査の経過報告と討論 (2)
 第7回：調査の経過報告と討論 (3)
 第8回：調査の経過報告と討論 (4)
 第9回：中間発表と討論
 第10回：調査の経過報告と討論 (5)
 第11回：調査の経過報告と討論 (6)
 第12回：調査の経過報告と討論 (7)
 第13回：調査の経過報告と討論 (8)
 第14回：期末発表と討論

履修上の注意

最新の既存の関連研究を収集するなど、自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回各々の研究の進捗について、発表を準備すること。

教科書

使用しない。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

討論と発表を含む実習過程と、成果物の双方により総合的に評価を行う。研究の内容はもとより、その意義や成果を伝えるための工夫も重視する。

その他

特になし。

博士後期課程

必修科目

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎		

授業の概要・到達目標

研究課題はマンガ、アニメ、ゲームなどにより構成されるおたく文化の研究、およびこの文化領域のアーカイブ構築である。博士後期課程三年次においては、学位請求論文の完成を目標とし、前半の指導においては、その準備に重心を置く。

授業内容

- 第1回：研究テーマの再検討：これまでの成果の発表と討論
 第2回：研究テーマの再検討：最新の既存研究の報告
 第3回：学位請求論文の検討：構成の検討
 第4回：学位請求論文の検討：完成に向けた手順の検討
 第5回：経過報告と討論 (1)
 第6回：経過報告と討論 (2)
 第7回：経過報告と討論 (3)
 第8回：経過報告と討論 (4)
 第9回：中間発表と討論
 第10回：経過報告と討論 (5)
 第11回：経過報告と討論 (6)
 第12回：経過報告と討論 (7)
 第13回：経過報告と討論 (8)
 第14回：期末発表と討論

履修上の注意

最新の既存の関連研究を収集するなど、自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回各々の研究の進捗について、発表を準備すること。

教科書

使用しない。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

討論と発表を含む実習過程と、成果物の双方により総合的に評価を行う。研究の内容はもとより、その意義や成果を伝えるための工夫も重視する。

その他

特になし。

ポップカルチャー		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎		

授業の概要・到達目標

研究課題はマンガ、アニメ、ゲームなどにより構成されるおたく文化の研究、およびこの文化領域のアーカイブ構築である。博士後期課程三年次においては、学位請求論文の完成を目標とし、後半の指導においては、その洗練に重心を置く。

授業内容

- 第1回：学位請求論文の検討：構成の再検討
 第2回：学位請求論文の検討：完成に向けた手順の再検討
 第3回：経過報告と討論 (1)
 第4回：経過報告と討論 (2)
 第5回：経過報告と討論 (3)
 第6回：経過報告と討論 (4)
 第7回：経過報告と討論 (5)
 第8回：中間発表と討論
 第9回：経過報告と討論 (6)
 第10回：経過報告と討論 (7)
 第11回：経過報告と討論 (8)
 第12回：経過報告と討論 (9)
 第13回：経過報告と討論 (10)
 第14回：年度末発表と討論

履修上の注意

最新の既存の関連研究を収集するなど、自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回各々の研究の進捗について、発表を準備すること。

教科書

使用しない。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

討論と発表を含む実習過程と、成果物の双方により総合的に評価を行う。研究の内容はもとより、その意義や成果を伝えるための工夫も重視する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 I	
開講期	春学期	単位 演 2
担当者	専任教授 博士(商学) 白戸 伸一	

授業の概要・到達目標

近現代の流通政策に関する歴史的検討を研究目的としており、本科目では研究課題設定にむけた研究史の整理と問題の所在の明確化を到達目標とする。そのために、研究対象としたい流通政策やそれが展開された段階の経済環境及び経済発展段階のマクロ的分析、当該政策の受容対象となる流通産業あるいは流通企業に関するミクロ的分析に関する先行研究を確認しておく。この作業を通じて研究テーマの深化をはかる。なお、研究テーマの設定は各自の問題意識をもとに設定し、類似政策に関する国際比較を視野に入れておくよう指導する。

授業内容

- 第1回：対象とする流通政策の検討課題
- 第2回：当該流通政策に関する先行研究の検討 (1)
- 第3回：当該流通政策に関する先行研究の検討 (2)
- 第4回：当該流通政策に関する先行研究の検討 (3)
- 第5回：当該流通政策に関する先行研究の検討 (4)
- 第6回：当該流通政策に関する国際比較 (1)
- 第7回：当該流通政策に関する国際比較 (2)
- 第8回：経済環境及び経済発展段階のマクロ的分析に関する先行研究の検討 (1)
- 第9回：経済環境及び経済発展段階のマクロ的分析に関する先行研究の検討 (2)
- 第10回：経済環境及び経済発展段階のマクロ的分析に関する先行研究の検討 (3)
- 第11回：流通産業・流通企業に関するミクロ的分析に関する先行研究の検討 (1)
- 第12回：流通産業・流通企業に関するミクロ的分析に関する先行研究の検討 (2)
- 第13回：流通産業・流通企業に関するミクロ的分析に関する先行研究の検討 (3)
- 第14回：論点整理と構成の検討

履修上の注意

関連文献及び論文を可能なかぎり広く調査し、論点及びその根拠を簡潔にまとめておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

先行研究をフォローした上で、研究テーマを絞り込んでおくこと。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価の方法

報告内容により評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 II	
開講期	秋学期	単位 演 2
担当者	専任教授 博士(商学) 白戸 伸一	

授業の概要・到達目標

近現代の流通政策に関する歴史的検討を研究目的としており、本科目では指導 I の研究成果を踏まえ、政策立案過程及びその効果の分析を議事録や統計資料、報告書等に依拠して進めるとともに、同様の政策が見られる場合は国際的比較をおこなうよう指導する。

授業内容

- 第1回：研究計画の検討
- 第2回：関係流通政策立案過程に関する分析 (1)
- 第3回：関係流通政策立案過程に関する分析 (2)
- 第4回：関係流通政策立案過程に関する分析 (3)
- 第5回：関係流通政策立案過程に関する分析 (4)
- 第6回：当該期の社会経済的問題点整理 (1)
- 第7回：当該期の社会経済的問題点整理 (2)
- 第8回：当該期の社会経済的問題点整理 (3)
- 第9回：当該期の社会経済的問題点整理 (4)
- 第10回：関係流通政策の成果の検討 (1)
- 第11回：関係流通政策の成果の検討 (2)
- 第12回：関係流通政策の成果の検討 (3)
- 第13回：関係流通政策の成果の検討 (4)
- 第14回：関係流通政策に関する国際比較

履修上の注意

分析・論証に当たっては極力一次資料を活用することとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

前期課程演習シラバス掲載の参考文献中、自分の研究テーマに関連したものを読了しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価の方法

報告内容により評価する。

その他

特になし。

博士後期課程**必修科目**

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ	
開講期	春学期	単位 演2
担当者	専任教授 博士(商学)	白戸 伸一

授業の概要・到達目標

近現代の流通政策に関する歴史的検討を研究目的としており、本科目では指導Ⅰ・Ⅱの研究成果を踏まえ、資料や事例をもとに当該政策の有効性を検証することを目標とする。

授業内容

- 第1回：当該流通政策と関連性の高い流通産業・関連企業の選定(1)
- 第2回：当該流通政策と関連性の高い流通産業・関連企業の選定(2)
- 第3回：事例1の分析・検討(1)
- 第4回：事例1の分析・検討(2)
- 第5回：事例1の分析・検討(3)
- 第6回：事例1の分析・検討(4)
- 第7回：事例2の分析・検討(1)
- 第8回：事例2の分析・検討(2)
- 第9回：事例2の分析・検討(3)
- 第10回：事例2の分析・検討(4)
- 第11回：事例3の分析・検討(1)
- 第12回：事例3の分析・検討(2)
- 第13回：事例3の分析・検討(3)
- 第14回：論点整理

履修上の注意

正確なデータを把握することに努めるとともに、データ管理に関する注意を喚起する。

準備学習(予習・復習等)の内容

学会報告を含む報告準備をすること。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価の方法

報告内容により評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ	
開講期	秋学期	単位 演2
担当者	専任教授 博士(商学)	白戸 伸一

授業の概要・到達目標

近現代の流通政策に関する歴史的検討を研究目的としており、本科目では指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの研究成果を踏まえ、関係学会での報告をおこなうことを目標とする。報告後は、問題点を再検討し必要に応じて補充調査を実施する。

授業内容

- 第1回：報告テーマの検討(1)
- 第2回：報告テーマの検討(2)
- 第3回：準備報告作成指導(1)
- 第4回：準備報告作成指導(2)
- 第5回：準備報告
- 第6回：第1回学会報告準備(1)
- 第7回：第1回学会報告準備(2)
- 第8回：第1回学会報告準備(3)
- 第9回：第1回学会報告準備(4)
- 第10回：報告後の問題点整理(1)
- 第11回：報告後の問題点整理(2)
- 第12回：当該流通政策に関する補充調査の検討(1)
- 第13回：当該流通政策に関する補充調査の検討(2)
- 第14回：論点整理・文章化指導

履修上の注意

先行研究のフォローを十分にやっておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

学会報告の準備を並行して進めること。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価の方法

報告内容により評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 V	
開講期	春学期	単位 演 2
担当者	専任教授 博士(商学)	白戸 伸一

授業の概要・到達目標

近現代の流通政策に関する歴史的検討を研究目的としており、本科目では指導 I～V の研究成果を踏まえ、関係学会での第 2 回報告をおこなうことを目標とするとともに、学位論文作成準備を進める。報告後は、問題点を再検討し必要に応じて補充調査を実施する。

授業内容

- 第 1 回：第 2 回学会報告のテーマに関する検討 (1)
- 第 2 回：第 2 回学会報告のテーマに関する検討 (2)
- 第 3 回：準備報告作成指導 (1)
- 第 4 回：準備報告再生指導 (2)
- 第 5 回：準備報告
- 第 6 回：第 2 回学会報告準備 (1)
- 第 7 回：第 2 回学会報告準備 (2)
- 第 8 回：第 2 回学会報告準備 (3)
- 第 9 回：第 2 回学会報告準備 (4)
- 第 10 回：報告後の問題点整理
- 第 11 回：学位論文テーマと構成の検討 (1)
- 第 12 回：学位論文テーマと構成の検討 (2)
- 第 13 回：学位論文の論点整理 (1)
- 第 14 回：学位論文の論点整理 (2)

履修上の注意

関係学会の部会報告などに参加し、同一領域の研究者の研究内容を吟味しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

学会報告のための資料収集と整理を進める。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価の方法

報告内容により評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 VI	
開講期	秋学期	単位 演 2
担当者	専任教授 博士(商学)	白戸 伸一

授業の概要・到達目標

近現代の流通政策に関する歴史的検討を研究目的としており、本科目では指導 I～V の研究成果・学会報告等を踏まえ、学位論文作成・提出を目標とする。

授業内容

- 第 1 回：学位論文テーマ及び構成の確認
- 第 2 回：研究テーマと先行研究との関連性の確認
- 第 3 回：主要論点の確認 (1)
- 第 4 回：主要論点の確認 (2)
- 第 5 回：研究テーマと事例研究の整合性の確認 (1)
- 第 6 回：研究テーマと事例研究の整合性の確認 (2)
- 第 7 回：研究テーマと事例研究の整合性の確認 (3)
- 第 8 回：主要論点とデータとの整合性の確認 (1)
- 第 9 回：主要論点とデータとの整合性の確認 (2)
- 第 10 回：主要論点とデータとの整合性の確認 (3)
- 第 11 回：総括部分の確認 (1)
- 第 12 回：総括部分の確認 (2)
- 第 13 回：叙述内容全般の確認
- 第 14 回：内容と形式の再確認

履修上の注意

論文提出スケジュールに合わせて研究計画を作成すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献目録の確認をしておくこと。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価の方法

報告内容により評価する。

その他

特になし。

博士後期課程**必修科目**

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 I	
開講期	春学期	単位 演 2
担当者	専任教授 博士（経済学） 呉 在烜	

授業の概要・到達目標

研究課題は、日本企業のものづくりシステムの国際比較です。この論文指導では、日本企業のものづくりシステムに関する先行研究をサーベイするための準備に取り組む。そのため、それに関する既存研究論文や文献を過去に遡って広く収集し、整理することを目的とする。

授業内容**第一課題 基礎研究の収集**

- 第1回：既存研究（文献）収集リストの作成
- 第2回：既存研究（文献）収集と報告
- 第3回：既存研究（学術論文など）収集リストの作成
- 第4回：既存研究（学術論文など）収集と報告

第二課題 日本語文既存研究の整理

- 第5回：既存研究の整理について（解説）
- 第6回：既存研究の報告（1）
- 第7回：既存研究の報告（2）
- 第8回：既存研究の報告（3）
- 第9回：既存研究の報告（4）

第三課題 外国語文既存研究の整理

- 第10回：既存研究の整理について（解説）
- 第11回：既存研究の報告（1）
- 第12回：既存研究の報告（2）
- 第13回：既存研究の報告（3）
- 第14回：既存研究の報告（4）

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、既存の研究文献を読んでそのポイントをまとめて授業で報告すること。
授業はその報告に基づいて議論を行う方式で進める。

教科書

特に用いない。

参考書

その都度、紹介する。

成績評価の方法

研究指導の各課題に対する準備と報告に基づいて評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 II	
開講期	秋学期	単位 演 2
担当者	専任教授 博士（経済学） 呉 在烜	

授業の概要・到達目標

研究課題は、日本のものづくりシステムの代表的なトヨタ生産のシステムの形成・発展について学習し、戦後日本のものづくりシステムがどのような環境で形成されたかを探究することを課題とする。

授業内容**第一課題：トヨタ生産方式の形成と発展について**

- 第1回：トヨタ生産方式の萌芽
- 第2回：トヨタ生産方式の萌芽に対する労使の対応
- 第3回：トヨタ生産方式の成立：1960年代前半
- 第4回：トヨタ生産方式の発展（1）：1960年代後半
- 第5回：トヨタ生産方式の発展（2）：1970年代
- 第6回：トヨタ生産方式の変容（1）：1980年代
- 第7回：トヨタ生産方式の変容（2）：バブル期

第二課題：トヨタ生産方式の進化論的解釈

- 第8回：トヨタの開発・生産システムの競争合理的側面
- 第9回：トヨタの開発・生産システムの発生と進化
- 第10回：トヨタ自動車におけるフォード・システムの導入
- 第11回：日本の自動車部品サプライヤー・システム
- 第12回：「ブラック・ボックス」部品取引システム
- 第13回：生産開発のダイナミックな側面
- 第14回：トヨタ新組立システムにみる組織内進化プロセス

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、既存研究文献を中心に講義と議論を進めるので、参考文献を必ず読んで授業に臨むこと。

教科書

「トヨタ生産方式の生成・発展・変容」佐武弘章（東洋経済新報社）
「生産システムの進化論」藤本隆宏（有斐閣）

参考書

その都度、紹介する。

成績評価の方法

報告・議論（50%）と期末レポート（50%）に基づいて評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考		
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 呉 在烜		

授業の概要・到達目標

研究課題は、アメリカの大量生産方式の原型となったフォード・システムの形成とその原理を学習し、それがトヨタ生産システムに与えた影響とトヨタ生産システムとの違いを明確にすることである。

授業内容

第一課題 フォード・システムの形成・普及・変容

第1回：フォード・システムとは何だったのか

第2回：フォード・システムの日本への受容

第3回：フォード・システムの形成(1) 自動車事業におけるフォード・システム移転の試み

第4回：フォード・システムの形成(2) 自動車事業における流れ作業への模索

第5回：フォード・システムの海外への普及と変容(1) 混流生産

第6回：フォード・システムの海外への普及と変容(2) ジャスト・イン・タイム生産

第7回：フォード・システムの海外への普及と変容(3) 部品表の完成

第二課題 大量生産方式とリーン生産方式の国際比較

第8回：大量生産方式はなぜ敗れたのか

第9回：自動車産業を変えたリーン生産革命

第10回：工場システムをいかに確立させるか

第11回：生産開発競争で日本が優位に立った理由

第12回：リーン生産における部品供給方式

第13回：リーン生産と販売システム

第14回：欧米におけるリーン生産方式の普及

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、テキストを中心に講義と議論を行いながら授業を進めるので、必ずテキストを読んで授業に臨むこと。

教科書

「ものづくり寓話：フォードからトヨタへ」和田一夫(名古屋大学出版会)

「リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える」J.P. ウォーマック他(経済界)

参考書

その都度、紹介する。

成績評価の方法

報告・議論(50%)と期末レポート(50%)に基づいて評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考		
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(経済学) 呉 在烜		

授業の概要・到達目標

研究課題は、日本企業の職場組織と人的資源管理、完成車メーカーと部品メーカー間の部品取引方式を学習し、日本企業の人的資源管理と企業間関係を欧米と比較してその違いを明らかにすることである。

授業内容

第一課題 職場の労働組織と人的資源管理

第1回：日本企業の中での技能形成

第2回：日本企業の中の職場組織と昇進・報酬管理

第3回：日米比較への展開：技能のタイプと組織戦略の補完性

第二課題 自動車産業における部品取引方式

第4回：継続的部品取引を統御する契約的枠組み

第5回：関係的技能の構造・深さ・次元

第6回：部品取引関係の比較制度的特性

第7回：日本におけるメーカーとサプライヤーとの関係

第8回：サプライヤー・システムの構造・機能・発生

第9回：日本のサプライヤー関係における信頼の役割

第10回：組織間関係の共振化

第11回：日本のサプライヤー・システムの事例

第12回：部品取引におけるリスク分担とモラル・ハザード

第13回：米国自動車産業における部品取引方式

第14回：自動車産業における部品取引関係の日米比較

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業はテキストを中心に講義と議論を行いながら進めるので、テキストを必ず読んで授業に臨むこと。

教科書

「日本の企業組織 革新的適応のメカニズム」浅沼萬里(東洋経済新報社)

「サプライヤー・システム」藤本隆宏他編著(有斐閣)

参考書

その都度、紹介する。

成績評価の方法

報告・議論(50%)と期末レポート(50%)に基づいて評価する。

その他

特になし。

博士後期課程**必修科目**

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 V	
開講期	春学期	演 2
担当者	専任教授 博士(経済学) 呉 在烜	

授業の概要・到達目標

研究課題は、日本企業の製品開発能力とその仕組みについて学習し、それが欧米企業と比較してどのような違いがあるかを明らかにすることである。

授業内容

- 第1回：製品開発力と企業間競争
- 第2回：世界の自動車産業における開発競争
- 第3回：パフォーマンスの尺度：リードタイム・品質・生産性
- 第4回：製品開発のプロセス (1) コンセプトの設定と製品企画
- 第5回：製品開発のプロセス (2) 製品および工程エンジニアリング
- 第6回：プロジェクト戦略 (1) 製品のバラエティと技術革新
- 第7回：プロジェクト戦略 (2) 部品メーカーとの協業と部品の共通化
- 第8回：製造能力：隠れた優位性の源泉 (1) 試作車の製作と金型の開発
- 第9回：製造能力：隠れた優位性の源泉 (2) パイロット・ランとランプアップ
- 第10回：問題解決サイクルの連携調整 (1) 開発段階の重複化
- 第11回：問題解決サイクルの連携調整 (2) 連携調整の実例
- 第12回：リーダーシップと組織：重量級 PM 制 (1) 組織のパターン
- 第13回：リーダーシップと組織：重量級 PM 制 (2) PM の技能と行動
- 第14回：効果的な製品開発のパターン：部品と全体

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業はテキストを中心に講義と議論を行いながら進めるので、必ずテキストを読んで授業に臨むこと。

教科書

「製品開発力」(増補版) 藤本隆宏, キム B. クラーク (ダイヤモンド社)

参考書

その都度、紹介する。

成績評価の方法

報告・議論 (50%) と期末レポート (50%) に基づいて評価する。

その他

特になし。

社会・情報・国際関係	備考	
科目名	研究論文指導 VI	
開講期	秋学期	演 2
担当者	専任教授 博士(経済学) 呉 在烜	

授業の概要・到達目標

研究課題は、日本企業の海外への技術移転・現地経営と、韓国・台湾・中国の経営方式を事例研究を中心に比較、考察することである。

授業内容

- 第1回：日本企業の国際化と技術移転
- 第2回：日本企業の生産管理を中心とした現地経営の特徴
- 第3回：日本企業の人事管理を中心とした現地経営の特徴
- 第4回：日本企業の技術移転と現地経営の事例 (1) ホンダ
- 第5回：日本企業の技術移転と現地経営の事例 (2) トヨタ
- 第6回：韓国企業の生産方式と経営方式
- 第7回：韓国企業の中国ビジネスの全体像
- 第8回：中国における韓国企業の現地経営の事例 (1) 現代自動車
- 第9回：中国における韓国企業の現地経営の事例 (2) LG 電子
- 第10回：中国における台湾企業の経営スタイル
- 第11回：中国の地域イノベーションと台湾企業の R&D
- 第12回：中国における民営企業と自動車企業の競争力
- 第13回：中国電機企業の技術革新能力：海信集団の事例
- 第14回：日本・中国・韓国・台湾企業のものづくりと経営の比較

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業はテキストを中心に講義と議論を行いながら進めるので、必ずテキストを読んで授業に臨むこと。

教科書

「中国における日・韓・台企業の経営比較」板垣博編著 (ミネルヴァ書房)

「日中韓」産業競争力構造の実証分析」上山邦雄他編著 (創成社)

参考書

その都度、紹介する。

成績評価の方法

報告・議論 (50%) と期末レポート (50%) に基づいて評価する。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 Ph.D.	尾関 直子	

授業の概要・到達目標

研究方法の中で最近、発展しつつある Mixed Methods Research の利点と欠点について学ぶ。必ずしも、言語学の研究を扱ってはいないが、言語学の研究において、質的研究方法、量的研究方法の両方の研究方法が使用されることが多くなりつつある。mixed methods の趣旨や背景、また、さまざまな分野でどのように使用されているかを検討する。質的研究方法と量的研究方法を相容れない対立した研究方法をとらえることは、すでに時代遅れであることを検証する。

授業内容

- 第1回：Introduction
- 第2回：Straw men of the qualitative-quantitative
- 第3回：Troubles with triangulation
- 第4回：Analytic density, postmodernism, and applied multiple method research
- 第5回：The practice of a mixed methods research strategy: Personal, professional and project considerations
- 第6回：Methodological issues in conducting mixed methods
- 第7回：Why do researchers integrate/combine/mesh/blend/mix/merge/fuse quantitative and qualitative research?
- 第8回：Quality of inferences in mixed methods research: calling for an integrative framework
- 第9回：Method mix, technical hex, theory fix
- 第10回：Mixing data collection methods: Lessons from social survey research
- 第11回：Analysis with APES, the actor process event scheme
- 第12回：Multi-perspective exploration as a tool for mixed methods research
- 第13回：Review
- 第14回：Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

It is better to be familiar with quantitative and qualitative research methods before you take this course.

教科書

Bergman, M. M. (2009). *Advances in Mixed Methods Research*. London: Sage.

参考書

none

成績評価の方法

Journal 50%, Presentation 50%

その他

論文指導が中心になるので、シラバスに変更があることに留意すること。

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 Ph.D.	尾関 直子	

授業の概要・到達目標

通常、言語教育で実践されている指導方法が第二言語習得理論に裏付けされているものかどうかを検証していく。ふつうは、第二言語習得に基づいて教室内での活動が行われるが、この授業では、その逆を行う。教室での指導方法や活動には、シラバス、文法指導、タスク活動、インプット、インタラクション、L1 の授業での使用、教師が学習者に与えるフィードバックなどが第二言語習得理論にかなったものなのか、どうかを検証する。

授業内容

- 第1回：Introduction
- 第2回：Instructed second language acquisition
- 第3回：The method construct and theories of L2 learning
- 第4回：Linguistic syllabuses and SLA
- 第5回：Explicit instruction and SLA
- 第6回：Comprehension-based and production based approaches to language teaching
- 第7回：Task-based language teaching
- 第8回：Teaching as input
- 第9回：Teaching as interaction
- 第10回：Using the L1 in the L2 classroom
- 第11回：Corrective feedback
- 第12回：Catering for learner differences through instruction
- 第13回：Teaching for learning
- 第14回：Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

none

教科書

Textbooks will be announced in class.

参考書

none

成績評価の方法

Journal 50%, Presentation 50%

その他

論文指導が中心になるので、シラバスに変更があることに留意すること。

必修科目

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		尾関 直子

授業の概要・到達目標

語彙の習得は第二言語を学ぶものにとっては、最も重要な言語習得である。語彙習得と語彙教授の理論と実践に関する研究を概観し、語彙指導への示唆について考える。語彙の習得に有益と思われる語彙ストラテジーの研究をレビューし、どのような語彙を習得していると第二言語が効率的に学ぶことができるかについても考える。

授業内容

- 第1回：Introduction
- 第2回：The goals of vocabulary learning
- 第3回：High-frequency words, specialized vocabulary
- 第4回：Knowing a word
- 第5回：Aspects of knowing a word
- 第6回：Teaching and explaining vocabulary
- 第7回：Vocabulary and listening and speaking
- 第8回：Vocabulary and reading and writing
- 第9回：Specialized uses of vocabulary
- 第10回：Vocabulary learning strategies and guessing from context
- 第11回：Word study strategies
- 第12回：Chunking and collocation
- 第13回：Testing vocabulary knowledge and use
- 第14回：Designing the vocabulary component of a language course

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

none

教科書

Textbooks will be announced in class.

参考書

none

成績評価の方法

Journal 50%, Presentation 50%

その他

論文指導が中心になるので、シラバスに変更があることに留意すること。

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		尾関 直子

授業の概要・到達目標

自律学習における動機づけは欠かせない要素であるが、その重要性を本授業で検証する。初期の自律学習では、メタ認知や認知ストラテジーなどが重視されていたが、近年、目標、帰属、自己効力感、結果の対する期待、価値観、自己評価などの動機づけの過程に注目されつつある。自律学習の中の動機づけに注目した研究をレビューをし、動機づけの役割を考える。

授業内容

- 第1回：Introduction
- 第2回：Motivation
- 第3回：Self-theories motivate self-regulated learning
- 第4回：Self-regulation of achievement goal pursuit
- 第5回：Interest and self-regulation: Relationships between two variables that influence learning
- 第6回：Motivation role of self-efficacy beliefs in self-regulated learning
- 第7回：Promoting self-regulated learning
- 第8回：The role of achievement values in the regulation
- 第9回：Work Habits and self-regulated learning
- 第10回：Understand promoting autonomous self-regulation: A self-determination theory perspective
- 第11回：Attributions as motivators of self-regulated learning
- 第12回：Goal-setting: A key proactive source of academic self-regulation
- 第13回：The Weave of motivation and self-regulated learning
- 第14回：The motivational role of adaptive help seeking self-regulated learning

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

It is useful if you are familiar with autonomy studies.

教科書

Textbooks will be announced in class.

参考書

none

成績評価の方法

Journal 50%, Presentation 50%

その他

論文指導が中心になるので、シラバスに変更があることに留意すること。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 Ph.D.	尾関 直子	

授業の概要・到達目標

ESL (EFL) のクラスでどのようにリーディング中心の授業において、literacyを育てるかについて考察する。

授業内容

- 第1回：Introduction
- 第2回：A brief literacy of reading instruction
- 第3回：Language proficiency and literacy background
- 第4回：Assessment
- 第5回：Language and culture as literacy variables
- 第6回：Teaching young ESL students to read
- 第7回：Teaching older EFL students to read
- 第8回：Teaching academic reading
- 第9回：Technology, ESL and literacy instruction
- 第10回：ESL literacy instructions
- 第11回：Demonstration of teaching reading
- 第12回：Demonstration of teaching reading
- 第13回：Review
- 第14回：Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

It is helpful if you read books related to literacy studies in advance.

教科書

Textbooks will be announced in class.

参考書

none

成績評価の方法

Journal 50%, Demonstration of teaching reading 50%

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 Ph.D.	尾関 直子	

授業の概要・到達目標

第二言語習得に関する教師と学習者の信条に関する研究を概観する。

授業内容

- 第1回：Introduction
- 第2回：Researching beliefs about SLA: A critical review
- 第3回：Evidence of emergent beliefs of a second language learner: A diary study
- 第4回：A sociocultural approach to young language learners' beliefs about language learning
- 第5回：Research on students' beliefs about SLA within a discursive approach
- 第6回：Metaphor and the subjective construction of beliefs
- 第7回：Beliefs in dialogue: A Bakhtinian view
- 第8回：A case study: Beliefs and metaphors of a Japanese teacher of English
- 第9回：Teachers' and students' beliefs within a Deweyan framework: Conflict and influence
- 第10回：The social construction of beliefs in the language classroom
- 第11回：Conclusion
- 第12回：Key words of beliefs
- 第13回：Review
- 第14回：Review

履修上の注意

We use only English in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

It is helpful if you read books which deal with individual differences in SLA in advance.

教科書

Textbooks will be announced in class.

参考書

none

成績評価の方法

Journal 50%, Presentation 50%

その他

論文指導が中心になるので、シラバスに変更があることに留意すること。

必修科目

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

履修学生のテーマに従って、研究目的、研究方法、先行研究収集の段取りを明確化する。基本的に、毎週の課題を決めて、その間の成果をレジメをきって報告し、それに基づいてディスカッションする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究の概要発表 (1)
- 第3回：研究の概要発表 (2)
- 第4回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
- 第5回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
- 第6回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
- 第7回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
- 第8回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)
- 第9回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (6)
- 第10回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (7)
- 第11回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (8)
- 第12回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (9)
- 第13回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (10)
- 第14回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (11)

履修上の注意

毎回レジメをきって発表する。異文化間教育学会に入会し、大会に参加する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容とディスカッションでの貢献。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

履修学生のテーマに従って、研究目的、研究方法、先行研究収集の段取りを明確化する。基本的に、毎週の課題を決めて、その間の成果をレジメをきって報告し、それに基づいてディスカッションする。

授業内容

- 第1回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
- 第2回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
- 第3回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
- 第4回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
- 第5回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)
- 第6回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (6)
- 第7回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (7)
- 第8回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (8)
- 第9回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (9)
- 第10回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (10)
- 第11回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (11)
- 第12回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (12)
- 第13回：学会大会発表抄録原稿の作成 (1)
- 第14回：学会大会発表抄録原稿の作成 (2)

履修上の注意

毎回レジメをきって発表する。異文化間教育学会大会参加申し込みを行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

学会発表に備えて、毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

抄録原稿、発表内容とディスカッションでの貢献。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

履修学生のテーマに従って、基本的に、毎週の課題を決めて、その間の成果をレジメきって報告し、それに基づいてディスカッションする。研究の途中経過をまとめて、異文化間教育学会大会で発表する。

授業内容

- 第1回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
 第2回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
 第3回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
 第4回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
 第5回：学会発表資料の作成
 第6回：学会発表資料の作成と発表練習 (1)
 第7回：学会発表資料の作成と発表練習 (2)
 第8回：学会発表資料の作成と発表練習 (3)
 第9回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
 第10回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
 第11回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
 第12回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
 第13回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)
 第14回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (6)

履修上の注意

毎回レジメをきって発表する。異文化間教育学会の大会で発表する。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容とディスカッションでの貢献。学会発表の完成度。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

履修学生のテーマに従って、基本的に、毎週の課題を決めて、その間の成果をレジメきって報告し、それに基づいてディスカッションする。

授業内容

- 第1回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
 第2回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
 第3回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
 第4回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
 第5回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)
 第6回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (6)
 第7回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (7)
 第8回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (8)
 第9回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (9)
 第10回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (10)
 第11回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (11)
 第12回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (12)
 第13回：学会大会発表抄録原稿の作成 (1)
 第14回：学会大会発表抄録原稿の作成 (2)

履修上の注意

毎回レジメをきって発表する。異文化間教育学会の大会参加申し込みを行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容とディスカッションでの貢献。

その他

特になし。

必修科目

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

履修学生のテーマに従って、基本的に、毎週の課題を決めて、その間の成果をレジメをきって報告し、それに基づいてディスカッションする。研究の成果をまとめて、異文化間教育学会大会で発表する。

授業内容

- 第1回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
- 第2回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
- 第3回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
- 第4回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
- 第5回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)
- 第6回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (6)
- 第7回：学会発表資料の作成
- 第8回：学会発表資料の作成と発表練習 (1)
- 第9回：学会発表資料の作成と発表練習 (2)
- 第10回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
- 第11回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
- 第12回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
- 第13回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
- 第14回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)

履修上の注意

毎回レジメをきって発表する。異文化間教育学会の大会で発表する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容とディスカッションでの貢献。学会発表の完成度。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

履修学生のテーマに従って、基本的に、毎週の課題を決めて、その間の成果をレジメをきって報告し、それに基づいてディスカッションする。博士論文の執筆と審査への準備。

授業内容

- 第1回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (1)
- 第2回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (2)
- 第3回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (3)
- 第4回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (4)
- 第5回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (5)
- 第6回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (6)
- 第7回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (7)
- 第8回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (8)
- 第9回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (9)
- 第10回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (10)
- 第11回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (11)
- 第12回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (12)
- 第13回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (13)
- 第14回：各自のテーマに基づく発表とディスカッション (14)

履修上の注意

毎回レジメをきって発表する。学会発表の成果等を博士論文の執筆に反映させる。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容とディスカッションでの貢献。博士論文の内容。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

日本語は、漢文（古典中国語）や英語など、異言語との接触を通して豊かになってくるとともに、複雑なものもなってきた。研究論文指導 I～VI では、日本語の構造と社会的な機能がどのように形成されてきたのかという歴史的な経緯を踏まえて、具体的なテーマを設定して博士論文にまとめることを目指して、指導を行う。研究論文指導 I では、先行研究の確実な把握を目指す。

授業内容

第1回：研究課題の設定
 第2回：先行研究の収集と整理
 第3回：先行研究の報告（1）
 第4回：先行研究の報告（2）
 第5回：先行研究の報告（3）
 第6回：先行研究の報告（4）
 第7回：研究課題の再設定
 第8回：先行研究の再収集と整理
 第9回：先行研究の報告（5）
 第10回：先行研究の報告（6）
 第11回：先行研究の報告（7）
 第12回：先行研究の報告（8）
 第13回：先行研究の論点整理
 第14回：先行研究の総括と仮説の設定

履修上の注意

先行研究の収集と読解を念入りに行ってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究を読み込む学習を行います。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に指示します。

成績評価の方法

博士論文に結実する要素のうち、仮説の妥当性、先行研究のまとめの確実性によって評価します。

その他

受講者の研究状況によって、内容を若干変更する場合があります。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

日本語は、漢文（古典中国語）や英語など、異言語との接触を通して豊かになってくるとともに、複雑なものもなってきた。研究論文指導 I～VI では、現代の日本語の構造と社会的な機能がどのように形成されてきたのかという歴史的な経緯を踏まえて、具体的なテーマを設定して博士論文にまとめることを目指して、指導を行う。研究論文指導 II では、先行研究を踏まえた仮説の設定と、それを実証するための調査の設計に重点を置く。

授業内容

第1回：仮説の設定
 第2回：調査の企画（1）
 第3回：調査の企画（2）
 第4回：調査の設計（1）
 第5回：調査の設計（2）
 第6回：予備調査結果の報告（1）
 第7回：予備調査結果の報告（2）
 第8回：調査データの分析法の検討（1）
 第9回：調査データの分析法の検討（2）
 第10回：仮説の再検討
 第11回：調査の再設計（1）
 第12回：調査の再設計（2）
 第13回：調査の再設計（3）
 第14回：調査の再設計（4）

履修上の注意

調査の設計は何度もやり直すことで、取得されるデータの信頼性が高まります。

準備学習（予習・復習等）の内容

調査の設計を多角的に練っていくことが中心になります。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に指示します。

成績評価の方法

博士論文に結実する要素のうち、仮説の妥当性、調査の設計の妥当性によって評価します。

その他

受講者の研究状況によって、内容を若干変更する場合があります。

必修科目

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

日本語は、漢文(古典中国語)や英語など、異言語との接触を通して豊かになってくるとともに、複雑なものもなってきた。研究論文指導Ⅰ～Ⅵでは、現代の日本語の構造と社会的な機能がどのように形成されてきたのかという歴史的な経緯を踏まえて、具体的なテーマを設定して博士論文にまとめることを目指して、指導を行う。研究論文指導Ⅲでは、調査の実施とデータ分析に重点を置く。

授業内容

- 第1回：調査結果の報告(1)
- 第2回：調査結果の報告(2)
- 第3回：調査結果の報告(3)
- 第4回：調査結果の報告(4)
- 第5回：データ分析(1)
- 第6回：データ分析(2)
- 第7回：データ分析(3)
- 第8回：調査結果の評価(1)
- 第9回：調査結果の評価(2)
- 第10回：再調査の設計
- 第11回：再調査結果の報告(1)
- 第12回：再調査結果の報告(2)
- 第13回：データ分析(4)
- 第14回：データ分析(5)

履修上の注意

データ分析は、試行錯誤も含めて、様々な角度から実施する必要があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

データの分析を多角的に行うことが中心になります。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に指示します。

成績評価の方法

博士論文に結実する要素のうち、調査の妥当性、データ分析の信頼性によって評価します。

その他

受講者の研究状況によって、内容を若干変更する場合があります。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

日本語は、漢文(古典中国語)や英語など、異言語との接触を通して豊かになってくるとともに、複雑なものもなってきた。研究論文指導Ⅰ～Ⅵでは、現代の日本語の構造と社会的な機能がどのように形成されてきたのかという歴史的な経緯を踏まえて、具体的なテーマを設定して博士論文にまとめることを目指して、指導を行う。研究論文指導Ⅳでは、データに基づく論理構築に重点を置く。

授業内容

- 第1回：データ分析の総合(1)
- 第2回：データ分析の総合(2)
- 第3回：データ分析の総合(3)
- 第4回：仮説の検証(1)
- 第5回：仮説の検証(2)
- 第6回：仮説の修正(1)
- 第7回：仮説の修正(2)
- 第8回：補完調査の設計
- 第9回：補完調査の報告
- 第10回：個別事例の研究と議論(1)
- 第11回：個別事例の研究と議論(2)
- 第12回：個別事例の研究と議論(3)
- 第13回：個別事例の研究と議論(4)
- 第14回：研究の論点整理

履修上の注意

データ分析の結果を総合して仮説を検証し、必要に応じて仮説を修正することが必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

データをもとに多角的に考えることが中心になります。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に指示します。

成績評価の方法

博士論文に結実する要素のうち、データ分析の信頼性、仮説の妥当性、議論の論理性によって評価します。

その他

受講者の研究状況によって、内容を若干変更する場合があります。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

日本語は、漢文(古典中国語)や英語など、異言語との接触を通して豊かになってくるとともに、複雑なものもなってきた。研究論文指導 I～VI では、現代の日本語の構造と社会的な機能がどのように形成されてきたのかという歴史的な経緯を踏まえて、具体的なテーマを設定して博士論文にまとめることを目指して、指導を行う。研究論文指導 V では、論理構築のための議論に重点を置く。

授業内容

- 第1回：仮説の再構築
- 第2回：個別分析による議論の展開 (1)
- 第3回：個別分析による議論の展開 (2)
- 第4回：個別分析による議論の展開 (3)
- 第5回：個別分析による議論の展開 (4)
- 第6回：個別分析による議論の展開 (5)
- 第7回：個別分析による議論の展開 (6)
- 第8回：データと議論の整合化 (1)
- 第9回：データと議論の整合化 (2)
- 第10回：データと議論の整合化 (3)
- 第11回：データと議論の整合化 (4)
- 第12回：議論の再構築による結論への導き (1)
- 第13回：議論の再構築による結論への導き (2)
- 第14回：論理構築の確認

履修上の注意

議論の詰めは十分か、多方面から確認する必要があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

議論の構築のために多角的に考えることが中心になります。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に指示します。

成績評価の方法

博士論文に結実する要素のうち、議論の論理性を中心に評価します。

その他

受講者の研究状況によって、内容を若干変更する場合があります。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

日本語は、漢文(古典中国語)や英語など、異言語との接触を通して豊かになってくるとともに、複雑なものもなってきた。研究論文指導 I～VI では、日本語の構造と社会的な機能がどのように形成されてきたのかという歴史的な経緯を踏まえて、具体的なテーマを設定して博士論文にまとめることを目指して、指導を行う。研究論文指導 VI では、結論の妥当性と論文の完成度に重点を置く。

授業内容

- 第1回：論文の全体構成の確認
- 第2回：結論の導出 (1)
- 第3回：結論の導出 (2)
- 第4回：仮説の最終確認
- 第5回：調査の最終確認
- 第6回：データ分析の最終チェック (1)
- 第7回：データ分析の最終チェック (2)
- 第8回：議論の最終確認 (1)
- 第9回：議論の最終確認 (2)
- 第10回：参考文献リストの最終確認
- 第11回：博士論文の完成 (1)
- 第12回：博士論文の完成 (2)
- 第13回：博士論文の発表
- 第14回：博士論文の自己評価

履修上の注意

論文の完成度を高めるために細心の注意を払う必要があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

博士論文の完成に向けた細心の思考が重要になります。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に指示します。

成績評価の方法

博士論文の完成度をを中心に評価します。

その他

受講者の研究状況によって、内容を若干変更する場合があります。

必修科目

言語・国際交流		備考	2019年度開講せず
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(国際広報メディア) 廣森 友人		

授業の概要・到達目標

本演習が対象とする研究分野は応用言語学、心理言語学、第二言語習得研究であり、テーマは第二言語習得に影響を与える学習者要因（とりわけ、学習動機、学習方略、学習スタイルなど）の理論実証的研究である。研究論文指導 I では、当該研究領域における最新の研究動向を体系的に整理する。その過程を通じて、先行研究での研究課題の設定や調査計画の立て方について批判的に検討することができるとともに、その成果を自らの研究計画の立案に活かすことができるようになることを目的とする。

授業内容

- 第 1 回 イントロダクション（授業の目的、概要、進め方、評価に関する説明など）
- 第 2 回 Individual Differences—Then and Now (1)
- 第 3 回 Individual Differences—Then and Now (2)
- 第 4 回 Individual Differences—Then and Now (3)
- 第 5 回 Personality (1)
- 第 6 回 Personality (2)
- 第 7 回 Personality (3)
- 第 8 回 中間まとめ
- 第 9 回 Language Aptitude (1)
- 第10回 Language Aptitude (2)
- 第11回 Language Aptitude (3)
- 第12回 Motivation (1)
- 第13回 Motivation (2)
- 第14回 Motivation (3)

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

毎回の授業出席、積極的な討議参加を心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題の作成を含めた授業前に入念な準備が要求されます。

教科書

Dornyei, Z., & Ryan, S. (2015). *The psychology of the language learner revisited*. New York: Routledge.

参考書

Gregersen, T., & MacIntyre, P. (2014). *Capitalizing on language learners' individuality: From premise to practice*. Bristol, UK: Multilingual Matters.

成績評価の方法

授業（討議含む）への参加状況、課題発表、レポートにより、総合的に判断します。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	2019年度開講せず
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士(国際広報メディア) 廣森 友人		

授業の概要・到達目標

本演習が対象とする研究分野は応用言語学、心理言語学、第二言語習得研究であり、テーマは第二言語習得に影響を与える学習者要因（とりわけ、学習動機、学習方略、学習スタイルなど）の理論実証的研究である。研究論文指導 II では、研究論文指導 I に引き続き、当該研究領域における最新の研究動向を体系的に整理する。その過程を通じて、研究仮説の立て方や分析方法について批判的に検討することができるとともに、その成果を自らの研究計画の立案に活かすことができるようになることを目的とする。

授業内容

- 第 1 回 イントロダクション（授業の目的、概要、進め方、評価に関する説明など）
- 第 2 回 Learning Styles and Cognitive Styles (1)
- 第 3 回 Learning Styles and Cognitive Styles (2)
- 第 4 回 Learning Styles and Cognitive Styles (3)
- 第 5 回 Learning Strategies and Self-Regulation (1)
- 第 6 回 Learning Strategies and Self-Regulation (2)
- 第 7 回 Learning Strategies and Self-Regulation (3)
- 第 8 回 中間まとめ
- 第 9 回 Other Learner Characteristics (1)
- 第10回 Other Learner Characteristics (2)
- 第11回 Other Learner Characteristics (3)
- 第12回 Looking Back and Forward (1)
- 第13回 Looking Back and Forward (2)
- 第14回 Looking Back and Forward (3)

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

毎回の授業出席、積極的な討議参加を心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題の作成を含めた授業前に入念な準備が要求されます。

教科書

Dornyei, Z., & Ryan, S. (2015). *The psychology of the language learner revisited*. New York: Routledge.

参考書

Gregersen, T., & MacIntyre, P. (2014). *Capitalizing on language learners' individuality: From premise to practice*. Bristol, UK: Multilingual Matters.

成績評価の方法

授業（討議含む）への参加状況、課題発表、レポートにより、総合的に判断します。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	2019年度開講せず
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(国際広報メディア) 廣森 友人		

授業の概要・到達目標

本演習が対象とする研究分野は応用言語学、心理言語学、第二言語習得研究であり、テーマは第二言語習得に影響を与える学習者要因（とりわけ、学習動機、学習方略、学習スタイルなど）の理論実証的研究である。研究論文指導Ⅲでは、博士論文の執筆を念頭に置き、自らが追求したい研究課題や研究仮説の設定とそれらに基づいた調査計画の立案について学ぶとともに、研究を遂行する上で必要となる研究手法（統計解析）を実践的に身につけることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン（授業の目的、概要、進め方、評価に関する説明など）
 第2回 研究課題の明確化と先行研究の調査（1）
 第3回 研究課題の明確化と先行研究の調査（2）
 第4回 研究課題の明確化と先行研究の調査（3）
 第5回 研究仮説の設定と研究方法の検討（1）
 第6回 研究仮説の設定と研究方法の検討（2）
 第7回 研究仮説の設定と研究方法の検討（3）
 第8回 中間まとめ
 第9回 統計解析ワークショップ（1）
 第10回 統計解析ワークショップ（2）
 第11回 統計解析ワークショップ（3）
 第12回 調査計画のまとめと研究発表に向けた準備（1）
 第13回 調査計画のまとめと研究発表に向けた準備（2）
 第14回 学生による研究発表と講評
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

毎回の授業出席、積極的な討議参加を心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題の作成を含めた授業前に入念な準備が要求されます。

教科書

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

参考書

必要に応じて、講義時に紹介します。

成績評価の方法

授業（討議含む）への参加状況、課題発表、レポートにより、総合的に判断します。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	2019年度開講せず
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(国際広報メディア) 廣森 友人		

授業の概要・到達目標

本演習が対象とする研究分野は応用言語学、心理言語学、第二言語習得研究であり、テーマは第二言語習得に影響を与える学習者要因（とりわけ、学習動機、学習方略、学習スタイルなど）の理論実証的研究である。研究論文指導Ⅳでは、博士論文の執筆を念頭に置き、実際の調査実施と分析・考察、ならびに調査結果の報告・公表の仕方について学ぶとともに、研究を遂行する上で必要となるより高度な研究手法（統計解析）を実践的に身につけることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨン（授業の目的、概要、進め方、評価に関する説明など）
 第2回 本調査の実施と振り返り（1）
 第3回 本調査の実施と振り返り（2）
 第4回 本調査の実施と振り返り（3）
 第5回 調査結果の多角的検討と関連研究との比較（1）
 第6回 調査結果の多角的検討と関連研究との比較（2）
 第7回 調査結果の多角的検討と関連研究との比較（3）
 第8回 中間まとめ
 第9回 統計解析ワークショップ（1）
 第10回 統計解析ワークショップ（2）
 第11回 統計解析ワークショップ（3）
 第12回 研究発表に向けた準備と意見交換（1）
 第13回 研究発表に向けた準備と意見交換（2）
 第14回 学生による研究発表と講評
 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

毎回の授業出席、積極的な討議参加を心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題の作成を含めた授業前に入念な準備が要求されます。

教科書

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

参考書

必要に応じて、講義時に紹介します。

成績評価の方法

授業（討議含む）への参加状況、課題発表、レポートにより、総合的に判断します。

その他

特になし。

博士後期課程

必修科目

言語・国際交流		備考	2019年度開講せず
科目名	研究論文指導Ⅴ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(国際広報メディア) 廣森 友人		

授業の概要・到達目標

本演習が対象とする研究分野は応用言語学、心理言語学、第二言語習得研究であり、テーマは第二言語習得に影響を与える学習者要因(とりわけ、学習動機、学習方略、学習スタイルなど)の理論実証的研究である。研究論文指導Ⅴでは、研究論文指導Ⅲ、Ⅳで学んだことを踏まえ、博士論文執筆にかかる問題点を再検討する(必要に応じて、研究計画の練り直しや再調査を実施する)とともに、研究のさらなる充実化、精緻化を図ることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクッション(授業の目的、概要、進め方、評価に関する説明など)
- 第2回 受講者の研究テーマに基づく発表と意見交換(1)
- 第3回 受講者の研究テーマに基づく発表と意見交換(2)
- 第4回 受講者の研究テーマに基づく発表と意見交換(3)
- 第5回 受講者の研究テーマに基づく発表と意見交換(4)
- 第6回 受講者の研究テーマに基づく発表と意見交換(5)
- 第7回 受講者の研究テーマに基づく発表と意見交換(6)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 博士論文の全体構想の検討とその検証(1)
- 第10回 博士論文の全体構想の検討とその検証(2)
- 第11回 博士論文の全体構想の検討とその検証(3)
- 第12回 博士論文の全体構想の検討とその検証(4)
- 第13回 博士論文の全体構想の検討とその検証(5)
- 第14回 博士論文の全体構想の検討とその検証(6)
- *講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

毎回の授業出席、積極的な討議参加を心掛けること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題の作成を含めた授業前に入念な準備が要求されます。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて、講義時に紹介します。

成績評価の方法

授業(討議含む)への参加状況、課題発表、レポートにより、総合的に判断します。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	2019年度開講せず
科目名	研究論文指導Ⅵ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(国際広報メディア) 廣森 友人		

授業の概要・到達目標

本演習が対象とする研究分野は応用言語学、心理言語学、第二言語習得研究であり、テーマは第二言語習得に影響を与える学習者要因(とりわけ、学習動機、学習方略、学習スタイルなど)の理論実証的研究である。研究論文指導Ⅵでは、研究論文指導Ⅲ、Ⅳで学んだことを踏まえ、博士論文の完成を目指すとともに、一連の研究から得られた成果を国内外における学会発表や学術論文としてまとめる。その過程を通じて、当該研究領域における研究のさらなる発展・深化に貢献することができるようになることを目的とする。

授業内容

- 第1回 インTRODクッション(授業の目的、概要、進め方、評価に関する説明など)
- 第2回 博士論文の各論の検討とその検証(1)
- 第3回 博士論文の各論の検討とその検証(2)
- 第4回 博士論文の各論の検討とその検証(3)
- 第5回 博士論文の各論の検討とその検証(4)
- 第6回 博士論文の各論の検討とその検証(5)
- 第7回 博士論文の各論の検討とその検証(6)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 博士論文全体の論理性と表現の適切性の確認(1)
- 第10回 博士論文全体の論理性と表現の適切性の確認(2)
- 第11回 博士論文全体の論理性と表現の適切性の確認(3)
- 第12回 博士論文全体の論理性と表現の適切性の確認(4)
- 第13回 博士論文全体の論理性と表現の適切性の確認(5)
- 第14回 博士論文全体の論理性と表現の適切性の確認(6)
- *講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

毎回の授業出席、積極的な討議参加を心掛けること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題の作成を含めた授業前に入念な準備が要求されます。

教科書

特になし。

参考書

必要に応じて、講義時に紹介します。

成績評価の方法

授業(討議含む)への参加状況、課題発表、レポートにより、総合的に判断します。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 博士(学術)	小森	和子

授業の概要・到達目標

研究論文指導 I では、第二言語習得研究(英語・日本語)の中で語彙を扱った先行研究(特に、付随的語彙学習、未知語の意味推測、単語認知処理、日中同形語の習得を中心に)についてレビューを行い、レビュー論文を執筆し、投稿する。それによって、これまでの研究成果を整理し、研究動向を捉え、受講者自身の研究の方向性を探る。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 修士論文の振り返り
- 第3回 修士論文で残された課題の確認と当該課題の研究意義の検討(1)
- 第4回 修士論文で残された課題の確認と当該課題の研究意義の検討(2)
- 第5回 修士論文で残された課題の確認と当該課題の研究意義の検討(3)
- 第6回 関連領域の射程範囲と、その概要の検討(1)
- 第7回 関連領域の射程範囲と、その概要の検討(2)
- 第8回 関連領域の射程範囲と、その概要の検討(3)
- 第9回 研究の種の発掘(1)
- 第10回 研究の種の発掘(2)
- 第11回 研究の種の発掘(3)
- 第12回 先行研究リスト作成
- 第13回 先行研究レビューの検討(1)
- 第14回 先行研究レビューの検討(2)

履修上の注意

本科目において、修士論文で残された課題を、研究課題の側面、調査方法の側面、分析方法の側面、関連領域との関係における本研究の位置づけの側面など、さまざまな側面から、受講者自身が振り返ることが重要である。自らの修士論文について、客観的に、かつ、論理的に、見直す姿勢を持つこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回課題を課すので、その指示に従うこと。

教科書

事前の指定はないが、進捗状況に応じて、指示する。

参考書

事前の指定はないが、進捗状況に応じて、指示する。

成績評価の方法

毎回の課題(50%)、期末課題(50%)

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 博士(学術)	小森	和子

授業の概要・到達目標

研究論文指導 II では、研究論文指導 I で行った先行研究レビューに基づいて、今後期待される研究課題を、研究方法別、研究課題別、母語別に整理し、リストアップする。その上で、残された研究課題と受講者の修士論文との継続性や関連性を精査し、意義のある、実行可能性のある研究課題案を検討する。当該研究課題案を実験計画に落とし込み、第1回目のパイロット調査を実施する。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 先行研究レビューのまとめ(1)
- 第3回 先行研究レビューのまとめ(2)
- 第4回 今後期待される研究課題の検討:研究方法編(1)
- 第5回 今後期待される研究課題の検討:研究方法編(2)
- 第6回 今後期待される研究課題の検討:研究方法編(3)
- 第7回 今後期待される研究課題の検討:研究課題・母語別編(1)
- 第8回 今後期待される研究課題の検討:研究課題・母語別編(2)
- 第9回 今後期待される研究課題の検討:研究課題・母語別編(3)
- 第10回 研究課題の立案(1)
- 第11回 研究課題の立案(2)
- 第12回 パイロット調査の計画立案(1)
- 第13回 パイロット調査の計画立案(2)
- 第14回 パイロット調査の研究計画完成

履修上の注意

先行研究レビューを執筆しながら、今後の実行可能性のある研究課題を立案するためには、研究手法や統計分析についての自習が必要となる。自立的、主体的な姿勢で、授業に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回課題を課すので、指示に従うこと。

教科書

事前には指定しない。受講生の予備知識に応じて、研究方法や統計に関する教科書を指定する。

参考書

受講生の予備知識に応じて、その都度、紹介する。

成績評価の方法

毎週の課題(50%)、期末の課題(50%)

その他

特になし。

博士後期課程**必修科目**

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 小森 和子		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅲでは、研究論文指導Ⅱで行った第1回パイロット調査の結果を、論文の形にまとめ、学会等で研究成果を報告することで、博士論文の研究課題を確定する。さらに、研究課題に即した実験方法を習得し、当該実験方法にて、第2回パイロット調査（必要に応じて、複数回のパイロット調査）を行い、実験方法を確定し、研究計画書を作成する。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 第1回パイロット調査の分析(1)
- 第3回 第1回パイロット調査の分析(2)
- 第4回 第1回パイロット調査の分析(3)
- 第5回 パイロット調査に基づく論文構想(1)
- 第6回 パイロット調査に基づく論文構想(2)
- 第7回 研究成果発表準備(1)
- 第8回 研究成果発表準備(2)
- 第9回 研究成果発表準備(3)
- 第10回 第1回パイロット調査に基づく新たな研究課題の検討と新たな研究方法の習得(1)
- 第11回 第1回パイロット調査に基づく新たな研究課題の検討と新たな研究方法の習得(2)
- 第12回 第1回パイロット調査に基づく新たな研究課題の検討と新たな研究方法の習得(3)
- 第13回 博士論文研究計画の立案(1)
- 第14回 博士論文研究計画の立案(2)

履修上の注意

研究成果発表を視野に入れながら、第1回パイロット調査の分析を行うだけでなく、同時に今後の新たな研究課題の掘り起こしを進めること。さらに、より高度な研究方法や分析手法の習得を目指すこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回課題を課すので、指示に従うこと。

教科書

指定しない。

参考書

受講生の予備知識に応じて、その都度、紹介する。

成績評価の方法

毎週の課題(50%)、期末の課題(50%)

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 小森 和子		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅳでは、研究論文指導Ⅲで作成した研究計画書に基づいて予備調査を実施する。予備調査の結果に基づき、研究計画書を確定し、本実験の準備に入る。同時に、予備調査の結果を論文の形にまとめ、学会等で発表を行う。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 博士論文研究計画の確認
- 第3回 博士論文研究計画の最終確定
- 第4回 実験計画立案(1)
- 第5回 実験計画立案(2)
- 第6回 実験計画立案(3)
- 第7回 予備調査準備(1)
- 第8回 予備調査準備(2)
- 第9回 予備調査実施(1)
- 第10回 予備調査実施(2)
- 第11回 予備調査分析(1)
- 第12回 予備調査分析(2)
- 第13回 実験計画修正(1)
- 第14回 実験計画修正(2)

履修上の注意

博士論文の予備調査を実施するとともに、自主的、積極的に、学会発表を行っていくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回課題を課すので、指示に従うこと。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

成績評価の方法

毎週の課題(50%)、期末の課題(50%)

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 博士(学術) 小森 和子		

授業の概要・到達目標

研究論文 V では、本実験の実施と分析を行い、博士論文の完成を目指す。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 実験計画の最終確定
- 第3回 本調査準備 (1)
- 第4回 本調査準備 (2)
- 第5回 本調査準備 (3)
- 第6回 本調査実施
- 第7回 本調査実施と分析 (1)
- 第8回 本調査実施と分析 (2)
- 第9回 本調査実施と分析 (3)
- 第10回 本調査実施と分析 (4)
- 第11回 追加調査検討
- 第12回 論文執筆 (1)
- 第13回 論文執筆 (2)
- 第14回 論文執筆 (3)

履修上の注意

本調査の実施と並行して、論文の全体構想を練っていくこと。また、研究課題に応えられる結果や材料がそろっているかを常に意識しながら、必要に応じて、再調査や追加調査を検討していくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

教員の指導に基づいて研究を進めるとともに、自律的に研究を進めること。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

成績評価の方法

毎週の課題 (50%)、期末の課題 (50%)

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 博士(学術) 小森 和子		

授業の概要・到達目標

研究論文指導 VI では、博士研究に残された課題を整理し、受講者自身が研究を客観的に振り返り、評価する。その上で、受講者が、博士論文執筆後、自律的に研究を遂行するためには、次なる課題をどこに設定すべきかを見極め、今後の研究の展望を明確にする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 論文執筆と次なる課題の検討 (1)
- 第3回 論文執筆と次なる課題の検討 (2)
- 第4回 論文執筆と次なる課題の検討 (3)
- 第5回 論文執筆と次なる課題の検討 (4)
- 第6回 博士論文の推敲 (1)
- 第7回 博士論文の推敲 (2)
- 第8回 博士論文の推敲 (3)
- 第9回 博士論文の推敲 (4)
- 第10回 博士論文の推敲 (5)
- 第11回 博士研究の振り返りと新たな研究計画の検討 (1)
- 第12回 博士研究の振り返りと新たな研究計画の検討 (2)
- 第13回 今後の研究計画立案
- 第14回 自身の研究に対する評価と今後の研究の方向性の確定

履修上の注意

博士論文の推敲においては、学会等での口頭発表でのフィードバックが有効であるため、積極的に学会発表を行うこと。また、博士論文完成は研究のゴールではなく、スタートであることを認識し、研究者として目指すべき次なる方向性を常に意識しながら、自らの研究能力を客観的に評価し、真摯に研究に向かう姿勢を養うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

この段階では、自らが自らに課題を出せるようにならないといけない。よって、準備学習は、受講者自身が決め、行っていくことが期待される。

教科書

指定しない。

参考書

指定しない。

成績評価の方法

博士論文 (50%) と今後の研究計画 (50%)

その他

特になし。

必修科目

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 Ed.D. マクロクリン, デイヴィッド		

授業の概要・到達目標

This course introduces the context in which educational research is conducted. Research paradigms are introduced and explained. The goal is to be able to give one's research a strong philosophical foundation.

授業内容

- 第1回: Introduction
- 第2回: Conceptions of Social Reality
- 第3回: Overview of Research Paradigms
- 第4回: Positivism and the Scientific Method
- 第5回: Post-positivism
- 第6回: Naturalistic and Interpretive Approaches to Research
- 第7回: Review: Analyzing the Research Approach of Example Studies
- 第8回: Mixed Methods Research (MMR)
- 第9回: Review: Analyzing MMR Studies
- 第10回: Critical Educational Research
- 第11回: Review: Analyzing Critical Research Studies
- 第12回: Theory in Educational Research
- 第13回: Determining Causation
- 第14回: Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

None.

参考書

Cohen, L., Manion, L., & Morrisom, K. (2018). Research Methods in Education (8th Ed.). London: Routledge

成績評価の方法

Weekly discussion on assigned content 50%
Presentation 50%

その他

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 Ed.D. マクロクリン, デイヴィッド		

授業の概要・到達目標

This course explores the concept of individual learner differences and their role in second language learning. It provides an overview of the most widely researched individual differences, such as motivation, self-regulation, learner beliefs, and learner identity.

授業内容

- 第1回: Introduction to Individual Differences
- 第2回: Personality
- 第3回: Language Aptitude
- 第4回: Motivation: Self-Determination Theory
- 第5回: Motivation: Socio-dynamic Perspectives
- 第6回: Motivation: Complex Dynamic Systems Perspectives
- 第7回: Motivation: Directed Motivational Currents
- 第8回: Self-Regulation: Introduction
- 第9回: Learning Strategies and Self-Regulation
- 第10回: Learner Beliefs
- 第11回: Language Anxiety
- 第12回: Creativity
- 第13回: Identity
- 第14回: Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

None

教科書

No textbook.

参考書

Dornyei, Z. & Ryan, S. (2015). The Psychology of the Language Learner Revisited. London: Routledge.

成績評価の方法

Weekly discussion on assigned content 50%
Presentation 50%

その他

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ed.D. マクロクリン, デイヴィッド		

授業の概要・到達目標

This course builds on Dissertation I by exploring the research methods used in the field of Second Language Acquisition (SLA). It looks at key issues in research methodology, planning and designing research, and collecting and analyzing data.

授業内容

- 第1回: Introduction
- 第2回: Main Research Methodologies (Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods)
- 第3回: Research Ethics
- 第4回: Longitudinal and Cross-sectional Research
- 第5回: Quantitative Data Collection
- 第6回: Qualitative Data Collection
- 第7回: Mixed Methods Research (MMR)
- 第8回: Classroom Research
- 第9回: Quantitative Data Analysis
- 第10回: Qualitative Data Analysis
- 第11回: Data Analysis in MMR
- 第12回: Reporting Research Results
- 第13回: Analysis of Research Studies
- 第14回: Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

None.

参考書

Dornyei, Z. (2007). *Research Methods in Applied Linguistics*. Oxford, UK: OUP.

成績評価の方法

Weekly discussion on assigned content 50%
Presentation 50%

その他

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 Ed.D. マクロクリン, デイヴィッド		

授業の概要・到達目標

This course explores the field of motivation research in motivation by presenting a number of theories of motivation. The course also examines how these theories are applied to the field of SLA, thereby providing a deeper understanding of motivational research.

授業内容

- 第1回: Introduction
- 第2回: Origins of Motivation Research
- 第3回: Expectancy-Value Theories of Motivation
- 第4回: Attribution Theory
- 第5回: Social Cognitive Theory
- 第6回: Goals and Goal Orientation
- 第7回: Affect and Motivation
- 第8回: Interest and Motivation
- 第9回: Intrinsic and Extrinsic Motivation I
- 第10回: Intrinsic and Extrinsic Motivation II
- 第11回: Sociocultural Influences
- 第12回: Teacher Influences
- 第13回: Classroom and School Influences
- 第14回: Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

None

教科書

No textbook.

参考書

Schunk, D. H, Pintrich, P. R., & Meece, J. L. (2008). *Motivation in Education (3rd Ed.)*. Columbus, Ohio: Pearson.

成績評価の方法

Weekly discussion of assigned content 50%
Presentation 50%

その他

博士後期課程

必修科目

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 Ed.D. マクロクリン, デイヴィッド		

授業の概要・到達目標

This course provides a thorough introduction to the field of self-regulated learning. It explores self-regulation in the light of theories of the self, achievement goal motivation, interest, self-efficacy beliefs, attribution theory, and self-determination theory.

授業内容

- 第1回: Introduction
- 第2回: Self-Theories and Self-Regulation
- 第3回: Goal Setting
- 第4回: Goal Pursuit
- 第5回: Self-Regulation of Motivation (SRM) Model
- 第6回: Interest and Self-Regulation
- 第7回: Self-Efficacy Beliefs
- 第8回: Self-Determination Theory (SDT) Perspective of Self-Regulation
- 第9回: Attribution Theory
- 第10回: Gender, Self-Regulation, and Motivation
- 第11回: Cultural Differences and Cultural Identity
- 第12回: Adaptive Help-Seeking
- 第13回: Achievement Values and Regulation of Achievement Behaviours
- 第14回: Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

It is helpful if you read books related to literacy studies in advance.

教科書

None.

参考書

Schunk, D. H. & Zimmerman, B. J. (Eds.). (2008). *Motivation and Self-Regulated Learning*. London: Routledge.

成績評価の方法

Weekly discussion on assigned content 50%
Presentation 50%

その他

言語・国際交流		備考	英語による授業
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任准教授 Ed.D. マクロクリン, デイヴィッド		

授業の概要・到達目標

This course offers an introduction to Sociocultural Theory (SCT) and its role in second language education. Learner narratives are used to illustrate the content of the theory.

授業内容

- 第1回: Introduction
- 第2回: Mediation
- 第3回: Narrative: Mona
- 第4回: Zone of Proximal Development (ZPD)
- 第5回: Narrative: Madame Tremblay
- 第6回: Languaging
- 第7回: Narratives: Jody/Sophie and Rachel
- 第8回: Everyday and Scientific Concepts
- 第9回: Narrative: Thaya
- 第10回: Cognition and Emotion
- 第11回: Narrative: Grace
- 第12回: Activity Theory
- 第13回: Narrative: Sandra
- 第14回: Review

履修上の注意

Only English is used in class.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

None.

参考書

Swain, M., Kinnear, P., & Steinman, L. (2011). *Sociocultural Theory in Second Language Education: An Introduction Through Narratives*. Bristol, UK: Multilingual Matters.

成績評価の方法

Weekly discussion on assigned content 50%
Presentation 50%

その他

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	特任教授 博士(教育学)	佐藤 郡衛	

授業の概要・到達目標

各自の修士論文(課題研究を含む)を振り返り、研究の到達点、問題点や課題を再度明確にする。問題点をこえるためには、どのような研究が今後必要になるかを検討する。その上で、先行研究に関する文献解読を通して研究テーマ、研究課題を明確にする。指導学生が複数の場合は、各自の修士論文を相互に検討しディスカッション等を通して、上記の課題を明らかにする。なお、修士論文を執筆していない場合は、現時点での研究計画をもとに、研究テーマ、研究課題を明確にする。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 修士論文等の概要報告(1)
- 第3回 修士論文等の概要報告(2)
- 第4回 修士論文等の課題・問題点の整理(1)
- 第5回 修士論文等の課題・問題点の整理(2)
- 第6回 先行研究の収集・整理(1)
- 第7回 先行研究の収集・整理(2)
- 第8回 先行研究の収集・整理(3)
- 第9回 先行研究の収集・整理(4)
- 第10回 先行研究の分析・検討(1)
- 第11回 先行研究の分析・検討(2)
- 第12回 先行研究の分析・検討(3)
- 第13回 自分の研究の位置づけの明確化(1)
- 第14回 自分の研究の位置づけの明確化(2)

履修上の注意

毎回、レジユメをきって報告すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告の内容について事前に十分に準備すること。また、討論した内容を次の報告に活かすようにすること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

授業時に各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容と討論の内容で評価する。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	特任教授 博士(教育学)	佐藤 郡衛	

授業の概要・到達目標

各自の研究課題をもとに、博士論文を作成するための研究計画を作成できるようにする。そのために、先行研究をもとに、リサーチクエスチヨソを設定する。その上で調査の企画・設計を行う。研究課題に即した研究方法を明確にし、その方法をもとに調査やフィールドワーク、資料収集などを開始する。予備的な調査を実施し、研究計画・方法を精緻化する。1年次の終わりまでには、研究課題や研究方法などを含めて博士論文のおおまかな研究計画をつくるようにする。

授業内容

- 第1回 研究計画の報告・討論(1)
- 第2回 研究計画の報告・討論(2)
- 第3回 リサーチクエスチヨソの設定(1)
- 第4回 リサーチクエスチヨソの設定(2)
- 第5回 調査の企画
- 第6回 調査の設計(1)
- 第7回 調査の設計(2)
- 第8回 データ分析の方法についての発表・討論(1)
- 第9回 データ分析の方法についての発表・討論(2)
- 第10回 予備調査結果の分析・報告(1)
- 第11回 予備調査結果の分析・報告(2)
- 第12回 仮説の再検討
- 第13回 調査の再設計(1)
- 第14回 調査の再設計(2)

履修上の注意

毎回、レジユメをきって報告すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

調査の方法、分析の方法について十分に準備すること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

授業時に各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容と討論の内容で評価する。

その他

特になし。

博士後期課程

必修科目

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	特任教授 博士(教育学)	佐藤 郡衛	

授業の概要・到達目標

調査結果の分析と考察を行う。その結果をもとに、関連学会で発表をするための準備を行い、その発表をもとに学会誌に投稿できるようにする。

授業内容

- 第1回 調査結果の分析・報告 (1)
- 第2回 調査結果の分析・報告 (2)
- 第3回 調査結果の分析・報告 (3)
- 第4回 学会発表の資料作成 (1)
- 第5回 学会発表の資料作成 (2)
- 第6回 学会発表の資料修正 (1)
- 第7回 学会発表の資料修正 (2)
- 第8回 学会発表の事前練習 (1)
- 第9回 学会発表の事前練習 (2)
- 第10回 学会発表の振り返り (1)
- 第11回 学会発表の振り返り (2)
- 第12回 学会誌への投稿の準備 (1)
- 第13回 学会誌への投稿の準備 (2)
- 第14回 学会誌への投稿の準備 (3)

履修上の注意

毎回、レジュメをきって報告すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告の内容について事前に十分に準備すること。また、討論した内容を次の報告に活かすようにすること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

授業時に各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容と討論の内容で評価する。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	特任教授 博士(教育学)	佐藤 郡衛	

授業の概要・到達目標

これまでの研究をもとに博士論文の全体の章構成を作成する。また、補充調査などを実施し、必要なデータの収集をすべて終えるようにする。これまで発表ないし投稿した内容とは別の博士論文の一部について、学会や研究会などで発表する。

授業内容

- 第1回 論文の全体構成の検討 (1)
- 第2回 論文の全体構成の検討 (2)
- 第3回 論文の全体構成の検討 (3)
- 第4回 補充調査の企画
- 第5回 補充調査の設計
- 第6回 補充調査の実施
- 第7回 補充調査結果の検討 (1)
- 第8回 補充調査結果の検討 (2)
- 第9回 補充調査結果の検討 (3)
- 第10回 個別課題についての発表と討論 (1)
- 第11回 個別課題についての発表と討論 (2)
- 第12回 個別課題についての発表と討論 (3)
- 第13回 学会発表の資料作成 (1)
- 第14回 学会発表の資料作成 (2)

履修上の注意

毎回、レジュメをきって報告すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告の内容について事前に十分に準備すること。また、討論した内容を次の報告に活かすようにすること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

授業時に各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容と討論の内容で評価する。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	特任教授 博士（教育学）	佐藤 郡衛	

授業の概要・到達目標

早い時期に学会発表を行い、それを学会誌・研究雑誌等に投稿する。そしてこれまでの投稿論文、学会発表などを博士論文に組み込み、博士論文の全体の章構成を明確にする。同時に、先行研究のレビュー、研究方法などの博士論文の序章や1章に相当する部分の執筆をする。その上で、論文全体の論旨の一貫性が保てるようにする。

授業内容

- 第1回 学会発表の資料作成
- 第2回 学会発表の資料修正
- 第3回 学会発表の事前練習 (1)
- 第4回 学会発表の事前練習 (2)
- 第5回 学会発表の振り返り (1)
- 第6回 学会発表の振り返り (2)
- 第7回 研究雑誌等への投稿の準備 (1)
- 第8回 研究雑誌等への投稿の準備 (2)
- 第9回 研究雑誌等への投稿の準備 (3)
- 第10回 論文の全体構成の再検討 (1)
- 第11回 論文の全体構成の再検討 (2)
- 第12回 博士論文の執筆内容の検討 (1)
- 第13回 博士論文の執筆内容の検討 (2)
- 第14回 博士論文の執筆内容の検討 (3)

履修上の注意

毎回、レジュメをきって報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の内容について事前に十分に準備すること。また、討論した内容を次の報告に活かすようにすること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

授業時に各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容と討論の内容で評価する。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	特任教授 博士（教育学）	佐藤 郡衛	

授業の概要・到達目標

博士論文の執筆を行う。できるだけ早い時期に博士論文の執筆が終えるようにする。この期間は、執筆した内容についてできるだけきめ細かく指導し、質の高い論文になるようにする。あわせて、論文の概要などを作成し、最終審査に臨むようにする。

授業内容

- 第1回 博士論文の執筆内容の検討 (1)
- 第2回 博士論文の執筆内容の検討 (2)
- 第3回 博士論文の執筆内容の検討 (3)
- 第4回 博士論文の執筆内容の検討 (4)
- 第5回 博士論文の執筆内容の検討 (5)
- 第6回 博士論文の執筆内容の検討 (6)
- 第7回 博士論文の執筆内容の検討 (7)
- 第8回 博士論文の執筆内容の検討 (8)
- 第9回 博士論文の全体の論理構成の再確認 (1)
- 第10回 博士論文の全体の論理構成の再確認 (2)
- 第11回 参考文献や引用文献等の検討
- 第12回 博士論文の概要の検討
- 第13回 博士論文の発表
- 第14回 博士論文の振り返り（研究の課題の確認）

履修上の注意

毎回、レジュメをきって報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の内容について事前に十分に準備すること。また、討論した内容を次の報告に活かすようにすること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

授業時に各自のテーマに基づいて推薦する。

成績評価の方法

発表内容と討論の内容で評価する。

その他

特になし。

博士後期課程

必修科目

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授		渡 浩一

授業の概要・到達目標

研究分野の研究史や現在の研究状況に関する報告とそれに対する議論・検討を通して、学生が主体的に研究課題・研究テーマを設定し、その研究の意義を明らかにしていくと同時に、研究領域や研究方法を確定していく。

授業内容

- 第1回：問題の所在と研究の視点の提示と検討
- 第2回：研究分野と研究領域の確認と検討
- 第3回：研究課題の検討 (1)
- 第4回：研究課題の検討 (2)
- 第5回：研究課題の検討 (3)
- 第6回：研究領域の検討 (1)
- 第7回：研究領域の検討 (2)
- 第8回：研究方法の検討 (1)
- 第9回：研究方法の検討 (2)
- 第10回：研究課題の設定 (1)
- 第11回：研究課題の設定 (2)
- 第12回：研究テーマの設定 (1)
- 第13回：研究テーマの設定 (2)
- 第14回：研究テーマの設定 (3)

履修上の注意

問題点を整理するなど、準備学習を十分にしておいて、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

できるだけ多くの関連論文を読破し、当該分野の研究の現況を整理して授業に臨むこと。また、授業での議論を踏まえて、研究課題・研究テーマの設定に向けて問題点を整理すること。

教科書

特になし。

参考書

関連する周辺領域への目配りも怠らないよう配慮しつつ、学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜提示する。

成績評価の方法

研究課題・研究テーマの設定に至る考証の緻密性及び設定された研究課題・研究テーマの妥当性・独創性による。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授		渡 浩一

授業の概要・到達目標

研究テーマに関する先行研究や関連する周辺領域の研究を渉猟・収集し、研究史を整理し、あわせて、研究テーマの妥当性や研究の意義を検証していく。

授業内容

- 第1回：先行研究の解説 (1)
- 第2回：先行研究の解説 (2)
- 第3回：先行研究の解説 (3)
- 第4回：先行研究の解説 (4)
- 第5回：先行研究の解説 (5)
- 第6回：先行研究の解説 (6)
- 第7回：先行研究の解説 (7)
- 第8回：関連周辺研究の解説 (1)
- 第9回：関連周辺研究の解説 (2)
- 第10回：関連周辺研究の解説 (3)
- 第11回：研究史の整理 (1)
- 第12回：研究史の整理 (2)
- 第13回：研究史の整理 (3)
- 第14回：研究テーマと研究方法の再検討

履修上の注意

問題点を整理するなど、準備学習を十分にしておいて、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究・関連周辺研究を精読し、問題となる所を整理して授業に臨むこと。また、授業での議論を踏まえて、さらに、多くの先行研究・関連周辺研究を精読していくこと。

教科書

特になし。

参考書

関連する周辺領域への目配りも怠らないよう配慮しつつ、学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜提示する。

成績評価の方法

先行研究の博覧とその理解の程度及びその研究テーマに則した問題点の整理の妥当性による。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授	渡 浩一	

授業の概要・到達目標

研究に必要な資料の博捜・収集とその分析，さらにはその分析結果の検討を通して，研究の緻密化を図る。

授業内容

- 第1回：既知の資料の収集と整理 (1)
- 第2回：既知の資料の収集と整理 (2)
- 第3回：既知の資料の収集と整理 (3)
- 第4回：既知の資料の収集と整理 (4)
- 第5回：既知の資料の収集と整理 (5)
- 第6回：未知の資料の博捜・収集と整理 (1)
- 第7回：未知の資料の博捜・収集と整理 (2)
- 第8回：未知の資料の博捜・収集と整理 (3)
- 第9回：収集資料の読解・分析 (1)
- 第10回：収集資料の読解・分析 (2)
- 第11回：収集資料の読解・分析 (3)
- 第12回：収集資料の読解・分析 (4)
- 第13回：収集資料の読解・分析 (5)
- 第14回：収集資料の読解・分析結果の整理

履修上の注意

問題点を整理するなど，準備学習を十分に於て，研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

収集した資料については，内容を把握し整理して授業に臨むこと。また，復習として，授業での議論を踏まえて，資料の価値を確定して行き，資料を再整理すること。

教科書

特になし。

参考書

関連する周辺領域への目配りも怠らないよう配慮しつつ，学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜提示する。

成績評価の方法

資料収集の状況と整理及び収集資料の読解・分析の進捗状況による。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授	渡 浩一	

授業の概要・到達目標

研究史の整理，収集資料の分析・検討などを踏まえ，学位論文の構想を検証しながら具体化していく。

授業内容

- 第1回：学位論文の全体的な構想とその検証 (1)
- 第2回：学位論文の全体的な構想とその検証 (2)
- 第3回：学位論文の全体的な構想とその検証 (3)
- 第4回：学位論文の各論の構想とその検証 (1)
- 第5回：学位論文の各論の構想とその検証 (2)
- 第6回：学位論文の各論の構想とその検証 (3)
- 第7回：学位論文の各論の構想とその検証 (4)
- 第8回：学位論文の各論の構想とその検証 (5)
- 第9回：学位論文の各論の構想とその検証 (6)
- 第10回：学位論文の各論の構想とその検証 (7)
- 第11回：学位論文の各論の構想とその検証 (8)
- 第12回：学位論文の各論の構想とその検証 (9)
- 第13回：学位論文の各論の構想とその検証 (10)
- 第14回：学位論文の全体的な構想と各論の構想との整合性の検証

履修上の注意

研究の目的や方法を明確に具体的に意識して，問題点を整理するなど，準備学習を十分に於て，研究指導に臨むこと。また，構想の緻密化・具体化を確実に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

構想内容をできるだけわかりやすく説明できるようなレジュメやパワーポイントなどを毎回用意して授業に臨むこと。また，授業での議論や指導を踏まえてそれを毎回修正していくこと。

教科書

特になし。

参考書

関連する周辺領域への目配りも怠らないよう配慮しつつ，学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜提示する。

成績評価の方法

学位論文の全体及び各論の構想内容の妥当性・論理的整合性による。

その他

特になし。

必修科目

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授		渡 浩一

授業の概要・到達目標

学位論文の各論の執筆を検討と修正を繰り返しながら進めていく。

授業内容

- 第1回：各論の執筆指導 (1)
- 第2回：各論の執筆指導 (2)
- 第3回：各論の執筆指導 (3)
- 第4回：各論の執筆指導 (4)
- 第5回：各論の執筆指導 (5)
- 第6回：各論の執筆指導 (6)
- 第7回：各論の執筆指導 (7)
- 第8回：執筆部分の検討と修正 (1)
- 第9回：執筆部分の検討と修正 (2)
- 第10回：執筆部分の検討と修正 (3)
- 第11回：執筆部分の検討と修正 (4)
- 第12回：執筆部分の検討と修正 (5)
- 第13回：執筆部分の検討と修正 (6)
- 第14回：執筆部分の検討と修正 (7)

履修上の注意

問題点を整理するなど、準備学習を十分にしておき、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、新たに執筆したものや修正したものを用意して授業に臨むこと。また、議論や指導を踏まえて順次修正・補訂をしていくこと。

教科書

特になし。

参考書

関連する周辺領域への目配りも怠らないよう配慮しつつ、学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜提示する。

成績評価の方法

学位論文の構想と執筆計画に照らしての執筆の進捗状況及びその内容の整合性による。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授		渡 浩一

授業の概要・到達目標

学位論文を検討と修正を繰り返しながらまとめていく。

授業内容

- 第1回：執筆部分の再検討と修正 (1)
- 第2回：執筆部分の再検討と修正 (2)
- 第3回：執筆部分の再検討と修正 (3)
- 第4回：執筆部分の再検討と修正 (4)
- 第5回：執筆部分の再検討と修正 (5)
- 第6回：執筆部分の再検討と修正 (6)
- 第7回：執筆部分の再検討と修正 (7)
- 第8回：執筆部分の再検討と修正 (8)
- 第9回：執筆部分の再検討と修正 (9)
- 第10回：執筆部分の再検討と修正 (10)
- 第11回：全体の整合性・論証性の検討 (1)
- 第12回：全体の整合性・論証性の検討 (2)
- 第13回：全体の整合性・論証性の検討 (3)
- 第14回：全体にわたる修正と補訂

履修上の注意

問題点を整理するなど、準備学習を十分にしておき、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、新たに執筆したものと修正・補訂を加えたものを用意して授業に臨むこと。授業での議論や指導を踏まえて、全体の構想との整合性を常に意識しながら修正・補訂を加えていくこと。

教科書

特になし。

参考書

関連する周辺領域への目配りも怠らないよう配慮しつつ、学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜提示する。

成績評価の方法

学位論文の構想と執筆計画に照らしての執筆の進捗状況及びその完成度による。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士（文学）	美濃部 仁	

授業の概要・到達目標

研究指導は、学生が自らの関心の所在を探り、問われるべき事柄を明確化し、それを学術論文という形に仕上げることを目的としておこなわれる。

研究論文指導 I では、学生の研究テーマに関わる基礎的テキストの一つを選び、講読する。その際、用いられている概念を正確に理解すること、テキストの背景にある著者の思想の体系を明らかにすることに努める。また、研究の進捗状況を見るために、何度か研究発表の機会を設ける。

授業内容

- 第 1 回：研究テーマについて
- 第 2 回：テキスト講読 (1)
- 第 3 回：テキスト講読 (2)
- 第 4 回：テキスト講読 (3)
- 第 5 回：テキスト講読 (4)
- 第 6 回：テキスト講読 (5)
- 第 7 回：研究発表 (1)
- 第 8 回：テキスト講読 (6)
- 第 9 回：テキスト講読 (7)
- 第 10 回：テキスト講読 (8)
- 第 11 回：テキスト講読 (9)
- 第 12 回：テキスト講読 (10)
- 第 13 回：まとめと討論
- 第 14 回：研究発表 (2)

履修上の注意

とくに、ありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを正確に読むために、紹介した参考書等を参照しながら、テキストの筋道が自分の中で明瞭になるまでよく考え、質問を準備してから授業に臨むようにしてください。

教科書

授業の中で指定する。

参考書

授業の中で紹介する。

成績評価の方法

論じられるべき問題がどの程度明らかになっているか、見出された問題にどの程度取り組んでいるか等によって評価する。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士（文学）	美濃部 仁	

授業の概要・到達目標

研究論文指導 II では、I に引き続き、学生の研究テーマに関わる基礎的テキストを講読する。その際には、I にも記したように、用いられている概念を正確に理解すること、テキストの背景にある著者の思想の体系を明らかにすることに努める。また、研究の進捗状況を見るために、何度か研究発表の機会を設ける。

授業内容

おおよその授業計画は次の通り。

- 第 1 回：研究の進捗状況について
- 第 2 回：研究発表 (1)
- 第 3 回：テキスト講読 (1)
- 第 4 回：テキスト講読 (2)
- 第 5 回：テキスト講読 (3)
- 第 6 回：テキスト講読 (4)
- 第 7 回：まとめと討論 (1)
- 第 8 回：研究発表 (2)
- 第 9 回：テキスト講読 (5)
- 第 10 回：テキスト講読 (6)
- 第 11 回：テキスト講読 (7)
- 第 12 回：テキスト講読 (8)
- 第 13 回：まとめと討論 (2)
- 第 14 回：研究発表 (3)

履修上の注意

とくに、ありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを正確に読むために、紹介した参考書等を参照しながら、テキストの筋道が自分の中で明瞭になるまでよく考え、質問を準備してから授業に臨むようにしてください。

教科書

授業の中で指定する。

参考書

授業の中で紹介する。

成績評価の方法

論じられるべき問題がどの程度明らかになっているか、見出された問題にどの程度取り組んでいるか等によって評価する。

その他

特になし。

必修科目

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（文学）	美濃部 仁	

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅲでは、Ⅰ・Ⅱに引き続き、学生の研究テーマに関わる基礎的テキストを講読する。その際には、Ⅰ・Ⅱにも記したように、用いられている概念を正確に理解すること、テキストの背景にある著者の思想の体系を明らかにすることに努める。また、研究の進捗状況を見るために、何度か研究発表の機会を設ける。

授業内容

- 第1回：研究の進捗状況について
- 第2回：研究発表（1）
- 第3回：テキスト講読（1）
- 第4回：テキスト講読（2）
- 第5回：テキスト講読（3）
- 第6回：テキスト講読（4）
- 第7回：まとめと討論（1）
- 第8回：研究発表（2）
- 第9回：テキスト講読（5）
- 第10回：テキスト講読（6）
- 第11回：テキスト講読（7）
- 第12回：テキスト講読（8）
- 第13回：まとめと討論（2）
- 第14回：研究発表（3）

履修上の注意

とくに、ありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを正確に読むために、紹介した参考書等を参照しながら、テキストの筋道が自分の中で明瞭になるまでよく考え、質問を準備してから授業に臨むようにしてください。

教科書

授業の中で指定する。

参考書

授業の中で紹介する。

成績評価の方法

論じられるべき問題がどの程度明らかになっているか、見出された問題にどの程度取り組んでいるか等によって評価する。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（文学）	美濃部 仁	

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅳでは、学生の研究対象に関わる先行研究を取り上げる。その際、できるかぎり研究対象に立ち戻って、先行研究の妥当性を検討するようにする。また、研究の進捗状況を見るために、何度か研究発表の機会を設ける。

授業内容

- 第1回：研究の進捗状況について
- 第2回：研究発表（1）
- 第3回：先行研究の検討（1）
- 第4回：先行研究の検討（2）
- 第5回：先行研究の検討（3）
- 第6回：先行研究の検討（4）
- 第7回：討論（1）
- 第8回：研究発表（2）
- 第9回：先行研究の検討（5）
- 第10回：先行研究の検討（6）
- 第11回：先行研究の検討（7）
- 第12回：先行研究の検討（8）
- 第13回：討論（2）
- 第14回：研究発表（3）

履修上の注意

とくに、ありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

先行研究は、紹介するだけでなく、自分の立場から評価するようにしてください。

教科書

特になし。

参考書

授業の中で紹介する。

成績評価の方法

研究の拡がりや深まりによって評価する。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅴ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	美濃部 仁	

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅴでは、Ⅳに引き続き、研究対象に関わる先行研究を取り上げる。その際には、Ⅳにも記したように、できるかぎり研究対象に立ち戻って、先行研究の妥当性を検討するようにする。また、研究の進捗状況を見るために、何度か研究発表の機会を設ける。

授業内容

- 第1回：研究の進捗状況について
- 第2回：研究発表(1)
- 第3回：先行研究の検討(1)
- 第4回：先行研究の検討(2)
- 第5回：先行研究の検討(3)
- 第6回：先行研究の検討(4)
- 第7回：討論(1)
- 第8回：研究発表(2)
- 第9回：先行研究の検討(5)
- 第10回：先行研究の検討(6)
- 第11回：先行研究の検討(7)
- 第12回：先行研究の検討(8)
- 第13回：討論(2)
- 第14回：研究発表(3)

履修上の注意

とくに、ありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

先行研究は、紹介するだけでなく、自分の立場から評価するようにしてください。

教科書

特になし。

参考書

授業の中で紹介する。

成績評価の方法

研究の拡がりや深まりによって評価する。

その他

特になし。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅵ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	美濃部 仁	

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅵでは、研究成果をまとめ、ひとつの論文に仕上げることを目指す。論文の構成を考えて目次をつくり、それに沿ってあらためてこれまでの研究結果を発表し、詳しく検討を加える。最後には、今後の研究課題も視野に入れ、今回の論文の位置づけをおこなう。

授業内容

- 第1回：研究の進捗状況について
- 第2回：研究発表(論文の構成について)
- 第3回：論文発表(1)
- 第4回：論文発表(2)
- 第5回：論文発表(3)
- 第6回：論文発表(4)
- 第7回：論文発表(5)
- 第8回：論文発表(6)
- 第9回：論文発表(7)
- 第10回：論文発表(8)
- 第11回：論文発表(9)
- 第12回：論文発表(10)
- 第13回：論文発表(11)
- 第14回：回顧と展望

履修上の注意

とくに、ありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、研究全体の目的を確認するようにしてください。

教科書

特になし。

参考書

授業中に指示する。

成績評価の方法

論文によって評価する。

その他

特になし。

博士後期課程

必修科目

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 I		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士（文学）	萩原 健	

授業の概要・到達目標

受講者が研究テーマを追究するための主たる助けとなるテキストを選び、講読します。

授業内容

第1回：テキスト選定
 第2回：テキスト講読（1）
 第3回：テキスト講読（2）
 第4回：テキスト講読（3）
 第5回：テキスト講読（4）
 第6回：まとめと討論（1）
 第7回：研究発表（1）
 第8回：テキスト講読（5）
 第9回：テキスト講読（6）
 第10回：テキスト講読（7）
 第11回：テキスト講読（8）
 第12回：テキスト講読（9）
 第13回：まとめと討論（2）
 第14回：研究発表（2）

履修上の注意

特にありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

適宜紹介する参考書の助けを借りつつ、毎回事前にテキストを読んでおき、疑問点を整理しておくこと。

教科書

「授業の概要・到達目標」参照。受講者各自が進める研究に資するテキストを読む授業なので、受講者が確定したあと、第1回授業で受講者と直接話し合って選定・指定します。

参考書

前項参照。受講者各自が進める研究に資するテキストを読む授業なので、受講者が確定したあと、第1回授業で受講者と直接話し合って選定・指定します。また受講者の研究が展開するにしたがって、続く回の授業で新たに提案していきます。

成績評価の方法

事前学習の程度、授業内での発言、研究発表の内容で評価します。

その他

特にありません。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 II		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士（文学）	萩原 健	

授業の概要・到達目標

研究論文指導 I に引き続き、受講者が研究テーマを追究するための主たる助けとなるテキストを選び、講読します。

授業内容

第1回：テキスト選定
 第2回：テキスト講読（1）
 第3回：テキスト講読（2）
 第4回：テキスト講読（3）
 第5回：テキスト講読（4）
 第6回：まとめと討論（1）
 第7回：研究発表（1）
 第8回：テキスト講読（5）
 第9回：テキスト講読（6）
 第10回：テキスト講読（7）
 第11回：テキスト講読（8）
 第12回：テキスト講読（9）
 第13回：まとめと討論（2）
 第14回：研究発表（2）

履修上の注意

特にありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

適宜紹介する参考書の助けを借りつつ、毎回事前にテキストを読んでおき、疑問点を整理しておくこと。

教科書

「授業の概要・到達目標」参照。受講者各自が進める研究に資するテキストを読む授業なので、第1回授業で受講者と直接話し合って選定・指定します。

参考書

前項参照。受講者各自が進める研究に資するテキストを読む授業なので、第1回授業で受講者と直接話し合って選定・指定します。また受講者の研究が展開するにしたがって、続く回の授業で新たに提案していきます。

成績評価の方法

事前学習の程度、授業内での発言、研究発表の内容で評価します。

その他

特にありません。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（文学）	萩原 健	

授業の概要・到達目標

受講者の研究テーマに関連する先行研究の整理・検討を行います。

授業内容

第1回：研究テーマの検討
 第2回：先行研究の検討（1）
 第3回：先行研究の検討（2）
 第4回：先行研究の検討（3）
 第5回：先行研究の検討（4）
 第6回：討論（1）
 第7回：研究発表（1）
 第8回：先行研究の検討（5）
 第9回：先行研究の検討（6）
 第10回：先行研究の検討（7）
 第11回：先行研究の検討（8）
 第12回：先行研究の検討（9）
 第13回：討論（2）
 第14回：研究発表（2）

履修上の注意

特にありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業での指示を受け、継続的に先行研究を探し、その内容に関して整理しておくこと。

教科書

「授業の概要・到達目標」参照。受講者各自が進める研究に関連する先行研究を整理・検討する授業なので、教科書は使用しません。

参考書

前項参照。受講者各自が進める研究に関連する先行研究を整理・検討する授業なので、第1回授業で受講者と直接話し合っ選定・指定します。また受講者の研究が展開するにしたがって、続く回の授業で新たに提案していきます。

成績評価の方法

準備の程度、授業内での発言、研究発表の内容で評価します。

その他

特にありません。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士（文学）	萩原 健	

授業の概要・到達目標

学位論文の構成を具体化します。

授業内容

第1回：論文の全体的な構成の検討（1）
 第2回：論文の全体的な構成の検討（2）
 第3回：論文の全体的な構成の検討（3）
 第4回：論文の各論の検討（1）
 第5回：論文の各論の検討（2）
 第6回：論文の各論の検討（3）
 第7回：論文の各論の検討（4）
 第8回：論文の各論の検討（5）
 第9回：論文の各論の検討（6）
 第10回：論文の各論の検討（7）
 第11回：論文の各論の検討（8）
 第12回：論文の各論の検討（9）
 第13回：論文の全体的な構成および各論の検討（1）
 第14回：論文の全体的な構成および各論の検討（2）

履修上の注意

特にありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業での指示を受け、論文の構成を継続的に整理・具体化していくとともに、逐次、問題点を整理しておくこと。

教科書

「授業の概要・到達目標」参照。学位論文の構成を具体化することを目標とした授業なので、教科書は使用しません。

参考書

前項参照。学位論文の構成を具体化することを目標とした授業なので、第1回授業で受講者と直接話し合っ選定・指定します。また受講者の研究が展開するにしたがって、続く回の授業で新たに提案していきます。

成績評価の方法

準備の程度、授業内での発言で評価します。

その他

特にありません。

博士後期課程

必修科目

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 V		
開講期	春学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士（文学）	萩原 健	

授業の概要・到達目標

学位論文の各論の執筆を進め、内容を検討・修正します。

授業内容

- 第1回：各論の執筆指導 (1)
- 第2回：各論の執筆指導 (2)
- 第3回：各論の執筆指導 (3)
- 第4回：各論の執筆指導 (4)
- 第5回：各論の執筆指導 (5)
- 第6回：各論の執筆指導 (6)
- 第7回：各論の執筆指導 (7)
- 第8回：執筆部分の検討と修正 (1)
- 第9回：執筆部分の検討と修正 (2)
- 第10回：執筆部分の検討と修正 (3)
- 第11回：執筆部分の検討と修正 (4)
- 第12回：執筆部分の検討と修正 (5)
- 第13回：執筆部分の検討と修正 (6)
- 第14回：執筆部分の検討と修正 (7)

履修上の注意

特にありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業での指示を受け、論文の各論を継続的に執筆・修正していくとともに、逐次、問題点を整理しておくこと。

教科書

「授業の概要・到達目標」参照。学位論文の各論を執筆すること、およびその内容の検討・修正を目標とした授業なので、教科書は使用しません。

参考書

前項参照。学位論文の各論を執筆すること、およびその内容の検討・修正を目標とした授業なので、第1回授業で受講者と直接話し合って選定・指定します。また受講者の研究が展開するにしたがって、続く回の授業で新たに提案していきます。

成績評価の方法

準備の程度、授業内での発言で評価します。

その他

特にありません。

文化・思想		備考	
科目名	研究論文指導 VI		
開講期	秋学期	単位	演 2
担当者	専任教授 博士（文学）	萩原 健	

授業の概要・到達目標

学位論文の各論の執筆を進め、内容を検討・修正し、論文を完成させます。

授業内容

- 第1回：執筆部分の再検討と修正 (1)
- 第2回：執筆部分の再検討と修正 (2)
- 第3回：執筆部分の再検討と修正 (3)
- 第4回：執筆部分の再検討と修正 (4)
- 第5回：執筆部分の再検討と修正 (5)
- 第6回：執筆部分の再検討と修正 (6)
- 第7回：執筆部分の再検討と修正 (7)
- 第8回：執筆部分の再検討と修正 (8)
- 第9回：執筆部分の再検討と修正 (9)
- 第10回：全体の検討 (1)
- 第11回：全体の検討 (2)
- 第12回：全体の検討 (3)
- 第13回：全体の修正 (1)
- 第14回：全体の修正 (2)

履修上の注意

特にありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業での指示を受け、論文を継続的に加筆修正していくとともに、逐次、問題点を整理しておくこと。

教科書

「授業の概要・到達目標」参照。学位論文の各論を執筆すること、およびその内容の検討・修正を目標とした授業なので、教科書は使用しません。

参考書

前項参照。学位論文の各論を執筆すること、およびその内容の検討・修正を目標とした授業なので、第1回授業で受講者と直接話し合って選定・指定します。また受講者の研究が展開するにしたがって、続く回の授業で新たに提案していきます。

成績評価の方法

準備の程度、授業内での発言、論文で評価します。

その他

特にありません。

ポップカルチャー	備考	3年に一度開講	
科目名	ポップカルチャー特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 森川 嘉一郎		

授業の概要・到達目標

マンガ・アニメ・ゲームの研究・批評・教育活動を展開していく上で必要な素養を身に付けることを目標とする。毎回この分野の動向や研究に関するトピックを取り上げ、関連課題を課し、翌週に受講生が成果発表を行うというトレーニングを反復する。

授業内容

- 第1回：マンガ・アニメ・ゲーム誌の読者投稿欄による研究
 第2回：前回課題の成果発表，マンガ・アニメ・ゲーム誌の広告欄による研究
 第3回：前回課題の成果発表，同人誌即売会カタログによる研究
 第4回：前回課題の成果発表，同人誌による研究
 第5回：前回課題の成果発表，書店における配置の研究
 第6回：前回課題の成果発表，専門店の売り場レイアウトの研究
 第7回：前回課題の成果発表，関連商品による研究
 第8回：前回課題の成果発表，聖地巡礼の研究
 第9回：前回課題の成果発表，販売促進や集客への運用に関する研究
 第10回：前回課題の成果発表，マンガ家の記念館等関連施設の研究
 第11回：前回課題の成果発表，マンガ・アニメ・ゲーム関連展示のキュレーションの研究
 第12回：前回課題の成果発表，表現の定量分析
 第13回：前回課題の成果発表，複合的手法による研究
 第14回：前回課題の成果発表

履修上の注意

既存の関連研究を収集するなど，自主的に研究を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り上げたトピックに関し，各々の研究テーマと関わりについて，文献等によって知見を補強すること。

教科書

適宜指示する。

参考書

各々のテーマに沿って適宜指示する。

成績評価の方法

各回の課題の成果発表の内容により評価を行う。

その他

社会・情報・国際関係	備考	3年に一度開講	
科目名	社会・情報・国際関係特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（経済学） 呉 在烜		

授業の概要・到達目標

日本企業のものづくりシステムを20世紀前半期にアメリカで発展した大量生産方式と比較して理解し，その日本のものづくりシステムの形成と発展を日本の文化や経済・社会との関連で考察することを目的とする。

授業内容

- 第1回：広義のものづくりシステムの理解
 第2回：大量生産方式：その前史
 第3回：大量生産方式：テーラーの「科学的管理法」
 第4回：大量生産方式：フォードの大量生産方式
 第5回：大量生産方式：GMの大量生産方式
 第6回：大量生産方式の国際的普及
 第7回：日本のものづくりシステムの形成：日科技連による品質管理運動
 第8回：日本のものづくりシステムの形成：生産性向上運動とIEの普及
 第9回：日本のものづくりシステムの形成：トヨタ生産方式の誕生（1）
 第10回：日本のものづくりシステムの形成：トヨタ生産方式の誕生（2）
 第11回：日本のものづくりシステムの形成：トヨタ生産方式の形成（1）
 第12回：日本のものづくりシステムの形成：トヨタ生産方式の形成（2）
 第13回：日本のものづくりシステムの形成：トヨタ生産方式の普及
 第14回：日本のものづくりシステムの形成と経済条件・社会・文化との関係

履修上の注意

配布された参考文献（論文など）を予習して参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，読むべき文献を紹介あるいは配布するので，必ずそれを読んで授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

講義の折に提示します。

成績評価の方法

講義への出席（20%），議論への参加度合い（30%），期末レポート（50%）で評価します。

その他

特にない。

言語・国際交流		備考	3年に一度開講
科目名	言語・国際交流特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学)	横田 雅弘	

授業の概要・到達目標

実践と研究は二項対立的に捉えられてしまうことがある。一方、これを不可分のものと考えても、実際に実践研究を上質の論文としてまとめることは容易なことではない。すなわち、実践者と研究者という区分は果たして妥当かという議論はあるが、実践が羅列されているだけで理論的な抽出がなされていない報告になっていたり、深く実践にコミットしておらず、理論的な枠組みに囚われて現実に起こっている事象については表面的にしか見ていなかったり、あるいはゆがめてしまっている論文もある。この授業では、優れた実践研究論文と思われるケースを持ち寄り、その何が優れているのかについてディスカッションし、実践研究を書く力を養う。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：実践研究とは何か
- 第3回：優れた実践研究についてテキストを読む
- 第4回：優れた実践研究についてテキストを読む
- 第5回：優れた実践研究についてテキストを読む
- 第6回：優れた実践研究の収集
- 第7回：優れた実践研究を読む (1)
- 第8回：優れた実践研究を読む (2)
- 第9回：優れた実践研究を読む (3)
- 第10回：優れた実践研究を読む (4)
- 第11回：優れた実践研究を読む (5)
- 第12回：優れた実践研究を読む (6)
- 第13回：優れた実践研究とは何か
- 第14回：総括

履修上の注意

毎回取り上げる論文について丁寧に読んでくること。担当した論文についてはレジメを切って発表する。実践を取り上げた自分の著作がある場合には、それについて発表する。建設的な批判精神で参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジメをきって発表するので、指導教員や学生の仲間からのコメントを生かして発表ができるように復習と予習が不可欠である。教科書となる1~3は全て購入して、しっかりと読んで授業に臨むことが求められる。

教科書

1. 『異文化間教育学大系』1巻~4巻, 異文化間教育学会編, 明石書店, 2016.
2. ドナルド・A・ショーン『省察的实践とは何か』(The Reflective Practitioner) 鳳書房, 2007. (絶版であるが中古品の購入が可能である)
3. ジーン・レイヴ, エティエンヌ・ウエンガー『状況に埋め込まれた学習』産業図書, 1993.

参考書

適宜指示する。

成績評価の方法

発表と授業への貢献, ならびに最終レポートを評価する。

その他

特になし。

言語・国際交流		備考	3年に一度開講
科目名	言語・国際交流特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)	田中 牧郎	

授業の概要・到達目標

博士後期課程の研究は、その成果を学会発表や学術論文の形で公表していくことを常に行っていくことが必要である。本授業では、何らかの学術的枠組で、日本語を研究対象とする院生を受講者に想定して、研究テーマの発見、探索的調査、仮説や研究課題の設定、調査の設計、得られたデータの分析、考察の展開、結論と課題の導出、という一連の過程を、いくつかの研究事例によって、徹底的に学んでいく。研究事例には、教員自身の研究、参加院生の研究、優れた学術論文、大規模プロジェクトを取り上げ、原則として1回につき1事例ずつを扱っていく。

授業内容

- 第1回：日本語研究の方法概観
- 第2回：教員の研究事例
- 第3回：優れた研究事例1
- 第4回：院生の研究事例1
- 第5回：院生の研究事例2
- 第6回：院生の研究事例3
- 第7回：院生の研究事例4
- 第8回：国立国語研究所のコーパスプロジェクト
- 第9回：国立国語研究所の言い換えプロジェクト
- 第10回：優れた研究事例2
- 第11回：院生の研究事例5
- 第12回：院生の研究事例6
- 第13回：院生の研究事例7
- 第14回：院生の研究事例8

履修上の注意

日本語学・日本語教育学を専門とする院生を主たる対象に想定していますが、それ以外の専門の院生も履修可能です。

準備学習(予習・復習等)の内容

取り上げる研究事例については、あらかじめ論文や報告書等を読んでから授業に参加して下さい。自身の研究事例を発表する当番の人は、当該授業の1週間前までに、論文や報告書とレジメを、Oh-o! Meiji で共有して下さい。

教科書

使用しません。

参考書

授業時に提示します。

成績評価の方法

授業時の取り組みによって評価します。

その他

履修者の専門分野や人数に応じて、内容を若干変更する場合があります。

言語・国際交流		備考	3年に一度開講
科目名	言語・国際交流特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士 マキュワン 麻哉		

授業の概要・到達目標

This course provides students with an overview of theories and recent empirical studies on psychology of language learners, especially personality, language learning motivation, learning styles, strategies, language aptitude, and language learning anxiety. Sociocultural factors which affect those individual factors will be also discussed.

授業内容

- 第1回：オリエンテーション・言語習得における学習者要因研究
- 第2回：学習者要因研究の概略
- 第3回：性格と言語習得の関係
- 第4回：性格と言語習得に関する実証研究
- 第5回：言語学習における動機づけ理論
- 第6回：言語学習における動機づけの実証研究
- 第7回：言語習得と学習スタイル・方略との関係
- 第8回：言語習得と言語学習不安の関係
- 第9回：言語習得と言語適正
- 第10回：リサーチ・プロジェクト：質問紙作成
- 第11回：リサーチ・プロジェクト：データ収集
- 第12回：リサーチ・プロジェクト：データ分析
- 第13回：プレゼンテーション
- 第14回：まとめ

履修上の注意

毎回の授業で指定された論文を必ず読んでくること

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に適宜お知らせいたします

教科書

なし（毎回の授業で論文を指定します）

参考書

Dornyei, Z., & Ryan, S. (2015). *The psychology of the language learner revisited*. New York: Routledge.

成績評価の方法

授業（討議含む）への参加状況 40% 課題発表及びレポート 60%

その他

特になし。

文化・思想		備考	3年に一度開講
科目名	文化・思想特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 渡 浩一		

授業の概要・到達目標

日本の地藏信仰の歴史と民俗について概観する。地藏菩薩として伝来した地藏がどのように変容して〈お地藏さん〉になっていったのか、そして日本人の中に広く深く浸透したかについて講じる。そして、そのことを通して、日本人の信仰の在り方や宗教心について考えてみたい。

日本人に最も馴染み深い信仰対象である〈お地藏さん〉についてその歴史的・民俗的背景も含めて深く理解し、日本の宗教や日本人の信仰の特質について理解してもらうことを到達目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地藏菩薩とは
- 第3回：古代の地藏信仰 (1)
- 第4回：古代の地藏信仰 (2)
- 第5回：古代の地藏信仰 (3)
- 第6回：中世の地藏信仰 (1)
- 第7回：中世の地藏信仰 (2)
- 第8回：中世の地藏信仰 (3)
- 第9回：近世の地藏信仰 (1)
- 第10回：近世の地藏信仰 (2)
- 第11回：近世の地藏信仰 (3)
- 第12回：地藏信仰の民俗 (1)
- 第13回：地藏信仰の民俗 (2)
- 第14回：地藏信仰の民俗 (3)

履修上の注意

半ば演習形式の講義となる。教科書・参考文献などを積極的に予習・復習に取り組み、積極的に発言すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の当該箇所を通読し、疑問点や問題となる所を整理して授業に臨むこと。授業での議論を踏まえて、参考文献を読むなど発展的学習をして理解を深めること。

教科書

渡浩一『お地藏さんの世界—救いの説話・歴史・民俗』（慶友社）

参考書

- 速水侑『地藏信仰』（塙新書）
- 桜井徳太郎編『地藏信仰』（民衆宗教史叢書 雄山閣）
- 大島建彦編「民間の地藏信仰」（溪水社）
- 石川純一郎『地藏の世界』（時事通信社）
- その他、適宜提示する。

成績評価の方法

授業中の発言（回数および内容）50%，レポート50%

その他

特になし。

博士後期課程

選択必修科目

文化・思想		備考	3年に一度開講
科目名	文化・思想特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 美濃部 仁		

授業の概要・到達目標

この授業では、「普遍」(西田の言葉では「一般者」と「無」という概念に注目しつつ、西田哲学の独自性について考えます。

まず、西田が影響を受けたジェイムズとヘーゲルを参照して西田の言う「純粹経験」の意味を明らかにした後、西田哲学を特徴づける「無の場所」概念がどのような問題に取り組む中で提出されたのかを考察します。その上で、「私と汝」の考察へと西田が向かわざるをえなかった必然性を考え、さらに、西田が「世界」を中心概念とするにいたった経緯、また、その世界を「弁証法的な一般者」と性格づけた理由について考えます。

授業内容

- 第1回：西田幾多郎の生涯
- 第2回：『善の研究』と純粹経験
- 第3回：ジェイムズの純粹経験
- 第4回：ヘーゲルの具体的普遍と西田の純粹経験
- 第5回：まとめ
- 第6回：意識と意識を超える物の現実存在
- 第7回：「場所」(1)：於てある物と於てある場所
- 第8回：「場所」(2)：無の場所
- 第9回：まとめ
- 第10回：「私と汝」(1)：環境と主体
- 第11回：「私と汝」(2)：個
- 第12回：まとめ
- 第13回：「弁証法的な一般者としての世界」(1)：個は個に対して個
- 第14回：「弁証法的な一般者としての世界」(2)：個の経験、無の経験、世界の経験

履修上の注意

西田哲学に取り組んだことのある学生を対象とした授業です。

準備学習(予習・復習等)の内容

予め関係のテキストを指示しますので、それを読んで、質問をまとめてから授業に臨むようにしてください。

教科書

『西田幾多郎全集』(岩波書店、旧版第1巻・第4巻・第7巻/新版第1巻・第3巻・第6巻)あるいは、西田幾多郎『善の研究』・『西田幾多郎哲学論集』I・II(岩波文庫)

参考書

ジェイムズ『根本的経験論』(白水社)、ヘーゲル『小論理学』(岩波文庫)、『西谷啓治著作集』第14巻(創文社)、上田閑照『西田幾多郎を読む』(岩波書店)、大峯顕編『西田哲学を学ぶ人のために』(世界思想社)

成績評価の方法

授業中の議論と発表によって評価します。

その他

特にありません。

文化・思想		備考	3年に一度開講
科目名	文化・思想特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	客員講師 松本 直樹		

授業の概要・到達目標

日本とドイツではほぼ同時期に活動した西田幾多郎とM・ハイデガーの哲学思想を、いずれも初期の主著である『善の研究』と『存在と時間』を比較対照しつつ論じます。

西田とハイデガーのあいだに直接的な交流はありませんでしたが、両人が問題にした事柄には大きな共通性があるように思われます。この共通性を理解し、さらに両者の違いを掘り下げるための土台を獲得することを目指します。

授業内容

- 第1回 aのみ インTRODクシヨン：西田幾多郎とハイデガー
- 第2回 西田幾多郎『善の研究』の執筆意図・その1：「序」について
- 第3回 西田幾多郎『善の研究』の執筆意図・その2：第二編(「實在」編)冒頭について
- 第4回 経験が純粹であるとは何を意味するか・その1：現在性・直接性・単純性について
- 第5回 純粹な経験からどのように實在を「説明」するか—継続する今について
- 第6回 「として」知覚の時間性—ハイデガー『存在と時間』の執筆意図と環境世界分析について
- 第7回 生の存在としての気づかい—『存在と時間』における現存在の実存論的分析論について
- 第8回 経験が純粹であるとは何を意味するか・その2：統一性・能動性について
- 第9回 現れの間(Da)としての「統一的或者」
- 第10回 精神としての統一力—『善の研究』と『存在と時間』における他者の問題について
- 第11回 意志としての統一力—『善の研究』と『存在と時間』における実存の問題について
- 第12回 生命としての統一力—『善の研究』と『存在と時間』における死の問題について
- 第13回 西田とハイデガーが見ていたもの
- 第14回 西田とハイデガーの相異について：まとめ

履修上の注意

とくに予備知識は必要ありませんが、自ら能動的に考える姿勢を求めます。講義中の私語など、講義の進行を妨げる行為については、厳しく対処します。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義で言及した事柄について、そのつど文献等で調べること。

教科書

用いません。

参考書

西田幾多郎著・藤田正勝注解/解説『善の研究』、岩波書店〈岩波文庫〉

M. Heidegger, Sein und Zeit, Tübingen: Max Niemeyer Verlag [邦訳：細谷貞夫訳『存在と時間』上・下、筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉]

成績評価の方法

期末レポート(100%)

その他

特になし。